



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー（3）：インタビューイー 竹内渉氏
Author(s)	成田, 真由美; 川本, 思心
Citation	CoSTEP Report, 5(3), -39
Issue Date	2022-04
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/84822">https://hdl.handle.net/2115/84822</a>
Type	report
File Information	CoSTEP_Report05-03_Narita.pdf



# CoSTEP Report



Communication in  
Science & Technology  
Education & Research Program

No.5 (3)  
2022.4

CoSTEP Report は、科学技術コミュニケーションの今、そして次について調査し、まとめたレポートです。北海道大学 CoSTEP\*の研修科生が CoSTEP スタッフと共に作成しました。

\*CoSTEP は科学技術コミュニケーター養成プログラムの略称。学生や社会人が科学技術コミュニケーションについて 1 年間学ぶプログラムです。

## アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー（3）

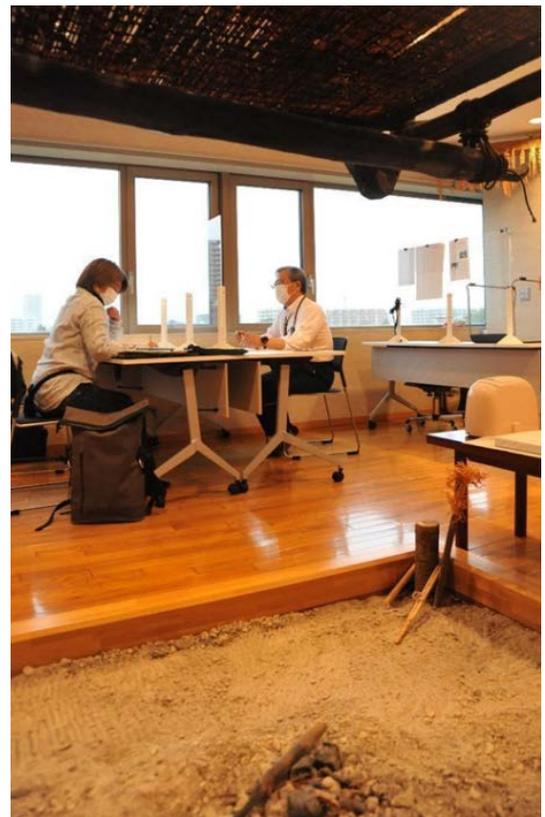
インタビューー：竹内渉 氏（公益社団法人北海道アイヌ協会 元事務局長）

成田真由美<sup>1</sup>、川本思心<sup>2</sup>

北海道では、過去に「研究のため」と称して大量のアイヌ遺骨を、アイヌの方々が管理する墓地から発掘・収集することを容認する社会的な環境があった。差別と偏見に抑圧されたアイヌ民族は、1970年代から一部のアイヌの方々が中心になり、自らのアイデンティティを確立しようとする「アイヌ民族活動」を展開する。しかし、現在も姿を変えて差別や偏見は残っていると云わざるを得ない。

私は、CoSTEP 研修科に所属し、アイヌ遺骨を巡る諸問題に関して関係者へのインタビューを通じて、過去の研究が現在にもたらした「負の側面」に、それぞれの立場で、どのように向き合っているのか伺うことにした（成田・川本 2020; 2021）。本稿はアイヌ遺骨問題に関する関係者インタビューの第3弾となる（成田・川本 2022a; 2022b）。私にできることを探す第1歩とするために。

このレポートでは、北海道に居住しているアイヌ民族を主な構成員とした公益社団法人北海道アイヌ協会（以下、「北海道アイヌ協会」）の事務局長を2015年に定年退職した竹内渉氏に行ったインタビューについて報告する。竹内氏は「アイヌ民族解放運動」を牽引したアイヌ解放同盟の結城庄司代表（1938-1983）の行動を間近に見ており、その思想も理解されている。また、竹内氏は非アイヌであるが、現在もアイヌ・コミュニティの一員として生活されており、非アイヌがアイヌの抱える問題の解決にどのように協働できるか、または求められるものは何かなども伺った。まず第1章でインタビューおよび公開までの概要を説明した。続く第2章では、インタビューの概要を記載した。そして第3章ではインタビューの詳細を大まかな内容ごとに節に分けて掲載した。第4章ではインタビューで触れた事例や団体の概要を補記した。



インタビューの様子。左が筆頭筆者で右が竹内氏

キーワード： アイヌ遺骨問題・インタビュー・アイヌ民族運動・結城庄司・差別

2022年4月13日

所属： 1. 北海道大学 CoSTEP 17期 研修科

2. 北海道大学 大学院理学研究院 / CoSTEP

連絡先: nrtmym1969@gmail.com（成田真由美）

## 1. インタビューおよび公開までの概要

日時:2021年10月20日(水)13:00-15:00

場所:北海道アイヌ協会 保存自習室

インタビューイー:竹内渉氏(公益財団法人北海道アイヌ協会<sup>1</sup> 元事務局長)

インタビュアー:成田真由美(CoSTEP 研修科)、川本思心(理学研究院/CoSTEP 准教授)

竹内氏にメールで趣旨の説明をして取材依頼をした。インタビュー当日はまず承諾書を竹内氏に説明し、許可を得て録音を開始し、インタビューを行った。最後に承諾書にサインを頂きインタビューを終了した。

インタビュー終了後、文字起こしを行い、それを元に本報告書を作成した。報告書は竹内氏に確認をしていただき、誤りがないことを確認したうえで、合意の上で公開した。

### 竹内渉氏プロフィール<sup>2</sup>

1954年 埼玉県に生まれる

1979年 北海道大学経済学部卒業

1983年 札幌アイヌ文化協会に参画

1993年 北海道アイヌ(ウタリ)協会に事務局員として勤務。事務局次長、事務局長兼常務理事を歴任し、2015年定年退職。

## 2. インタビューの概要 (詳細は第3章参照)

### 2-1. 加害者側の人権救済/潜在在的な差別に

ついて (第3章9, 13, 14, 16, 17節参照)

「差別いけない」、「自分は差別をしていない」で止まらずに、自分事として捉え、「差別を止める側」に回って欲しい。

差別してしまう人は、偏見を植え付けられ、人権感覚がゆがめられているからである。差別をしてしまう人(加差別者)の人権意識を救済することが、被差別被害を減らすことにつながる。差別的なことをしてしまった時は、素直に

反省して謝るしかない。差別的なことをしないように気を付ける意識を持つことは大事。

非アイヌがアイヌ語の意味を理解せずを使用することも、潜在的なアイヌ蔑視である。キャンペーンで使用されるイランカラプテの意味や交わされるシチュエーションを考慮していないこと、造語である民族共生象徴空間<sup>3</sup>の愛称ウポポイがアイヌ語であるとするなども同様。自分たちの言葉を変に使われたら嫌なものである。

<sup>1</sup> 北海道アイヌ協会ウェブサイトの協会概要には「北海道に居住しているアイヌ民族を主な構成員として組織し、「先住民族アイヌの尊厳を確立するため、人種・民族に基づくあらゆる障壁を克服し、その社会的地位の向上と文化の保存・伝承及び発展に寄与すること」を目的とする団体です」と記されている

<https://www.ainu-assn.or.jp/outline/overview.html> (2021年11月29日閲覧)。

<sup>2</sup> プロフィールは竹内(2020)より作成。

<sup>3</sup> アイヌ文化の復興と発展のナショナルセンターとして設置。国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設から成る。<https://ainu-upopoy.jp/> (2022年1月25日閲覧)

## 2-2. 誇り (第3章4, 20, 22節参照)

アイヌがアイヌとして生きる、生きられる社会。アイヌルーツを持つ子供は、差別的な扱いをもってアイヌと断定されることが多いが、アイヌであることも、アイヌではないことも同じように選べる社会が望ましい。

ひとつの伝統行事を復活させると、刺繍や、歌、踊り、カムイノミの言葉、作法や宗教感など、様々なものが必要になり、その波及効果は大きい。数時間限りではあるが、アイヌ伝統社会の再現であり、誇らしいものである。しかし日常的には、アイヌ語を学ぶ機会も、アイヌの伝統的な社会もないという現状がある。

法律でアイヌは先住民族と明記されたが、先住権がないままである。国がアイヌの先住権を認めることが、誇りを持って生きるアイヌが増えることにつながるだろう。アイヌ主体のアイヌに関する事業やアイヌの若者を育てるプログラム構想がないことも課題である。

## 2-3. 非アイヌによるアイヌ民族運動の支援

(第3章1, 8, 9, 23節参照)

被差別部落出身者として、差別問題に関しては敏感になっていたはずだが、北海道に来てアイヌの方々の足を踏んでいる自分がいたことを自覚した。いわゆる「アイヌ問題」はアイヌが原因ではなく、非アイヌの問題である。支援者は、そのことを自覚する必要がある。

支援者がその能力を活かして支援することはメリットが大きいですが、逆に支援者が主導権を握ってしまう場面もある。

「運動を辞めることができても、俺はアイヌであることを辞めることはできない」という結城庄司氏<sup>4</sup>の言葉を聞いたときに、不退転の決意だと思った。

## 2-4. アイヌ研究と遺骨返還 (第3章9-14, 18節参照)

盗掘まがいの収集、収集した遺骨もバラバラで管理もずさんであったことなど、収集、管理の問題は大きい。さらに、当時の形質人類学は結果を残せなかった。残ったのは還せない遺骨と副葬品だけである。

過去の研究には、アイヌ蔑視の気持ちがあったからできたのだろう。しかし、それは現代でも同様である。「アイヌのために」というが、本人も気づいていない蔑視感があると思われる。

遺骨返還に関しては、様々な意見がある。公益社団法人北海道アイヌ協会は、還せる遺骨は返還できるよう各支部の希望を確認し、北海道大学は希望通り返還を行った。返還に関して全てのアイヌの意見を聞いているわけではないが、全ての遺骨の返還を求める方々や白老町にある慰霊施設への集約に同意している方々もいる。また、遺骨の慰霊に関しては、白老の慰霊施設で年に1回、全道のアイヌが集まって行う方が良いという意見もある。これは、自分たちの世代だけでなく、子や孫の次世代までどうするかは決められないという理由がある。

<sup>4</sup> 結城庄司 (1938-1983)。北海道釧路市出身のアイヌ民族。詳細は3章24節と4章1節1項を参照。

### 3. インタビューの詳細

インタビューワーカーである成田より調査の目的等を説明し、録音、撮影の許可を得た。その後、以下の通りインタビューを実施した。尚、以下の文字起こしは、個人情報保護のため、また誤読を防ぎ可読性を上げるための最低限の修正を行っている。

#### 3-1. 足を踏まれる痛み

成田:まず竹内さんのプロフィール的なことから伺いたいです。あの、これ(竹内2020)によると、本州出身で…。

竹内:うん。埼玉ですね。

成田:それから北海道大学の経済学部にいっちゃって、その時に結城庄司さんにお会いされたんでしょうか？

竹内:えーっとね。もうちょっと詳しく言うとね。埼玉の被差別部落<sup>5</sup>の生まれなんです。その本には書いてないんですけどね。前の本には書いてあるんですけど、僕はいいんですけど、僕の縁者が、部落だというと困る人もいて。前の本を従兄弟にあげたら、「え？じゃあ僕も部落民なの？」って。知らなかったんだよ、彼。  
で、それで、当然差別問題に関しては、他の人よりも、敏感な人間だと思ってた。と

ころが北海道に来てみると、今度はアイヌの…。足を踏まれる痛みを知っているはずなのに、人の足を踏んでいる自分がいるわけですね。それは、許されないことだ。

#### 3-2. 北大経済学部長糾弾

竹内:結城さんと会ったのは、大学4年ですね。経済学部長だった林善茂教授が…。

成田:あの事件ですね(4章1節2項参照)。

竹内:はい。あの事件ですね。で、僕はその講義は取ってなくて、最初は全く無関心だったんですけど、だんだんだんだん、騒がしくなってきた。その時、アパート、共同で部屋借りてた友人がいて。今でいえばルームシェアですか？で、その子が、学生の抗議する会の代表みたいな形になって、頻繁に結城さんに会ってたんですね。で、僕は、北24条の焼き鳥屋さんでバイトしてて、そこに友人が結城さんを連れてきて。で、初めて会ったんだね。その友人が在日<sup>6</sup>の方で。ま、たまたまなんですけどね。で、だから、三者三様に被差別性ってことを考えている人たちでしたね。で、結城さんって、こう、ニコニコしてるんですよ。でも、目が笑ってないんですよ。ま、

<sup>5</sup> 法務省のウェブサイトで部落差別・同和問題は「日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低位の状態を強いられ、日常生活の上で様々な差別を受けるなど、我が国固有の重大な人権問題です」と概括されている。  
[https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04\\_00127.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00127.html)  
(2022年1月4日閲覧)

<sup>6</sup> 国立国会図書館のウェブサイトによると、朝鮮半島にルーツを持つ在留する韓国・朝鮮人は約44万人に及ぶ(2021年12月現在)。「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」等、論者の観点により様々な呼称が用いられる。  
[https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-asia-126.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-126.php) (2022年1月4日閲覧)

北大とドンパチやってる時の精神状態なので、余計でしょうね。怖かったですね。

成田:初めてお会いした時は、テントは撤収した後?

竹内:いや。まだ、テントに入る前でなかったかな。

成田:ああ、じゃあ、一番こう…。始まる時で…。

竹内:うんうん。

成田:ありますよね。

竹内:テントに入ったのが12月の末ですから。だから、その前だったと思うね。テント設置してから、外に出歩いていないはずですね。

成田:で、そのテントで抗議、ということで、テントに入られて…。えっと、国会議員になった…

竹内:萱野先生<sup>7</sup>

成田:萱野さんの仲介で、まあ、和解というか…されたと。その後も、竹内さんは結城さんと一緒に行動されてた?

竹内:そうですね、はい。

### 3-3. 登別アイヌ共同墓地破壊問題

竹内:大学の方がほぼ解決して、そしたら、登別の方から結城さんの方に電話がかかっ

てくるんですね。アイヌの墓が荒らされて、壊されたままになってると(4章1節3項参照)。で、なんとか手伝ってくれと。指導してくれと。多分その北大の事件を見て、非暴力で解決に導いたってことで、お願いできるんでないかっていう。信頼感が得られたんだと思う。それまではね、結城さんって、ちょっと過激派とみられて、アイヌからも彼の活動はあまり理解されていなかったんですよね。多分、北大の事件が、彼が市民権、彼の活動が市民権を得た大きなポイントだと思うんですよね。

いずれにしろ、登別から墓問題で要請が来て、で結城さん、4月ころかな、行ってきたのが。で、僕は遅れて行って来たんですけどね。

成田:登別の共同墓地の破壊の件も、竹内さんは見られて? 見られてたっていうか…

竹内:はい。現地行ってました。登別にそのまま住み込んで、5年ぐらいいましたね。

成田:登別って、何年でしたっけ?

竹内:1978年じゃないですかね。

成田:この時って、結城さん。ああ、すぐ結城さんの話にしたがるな…。やっぱり、結城庄司さんの活動っていうのが、凄い転機だよなとは思ってますよ。民族運動っていう転機。差別されてた、研究の対象だったモノから、…そうではないと。私たちは、ちゃんとしてるんだという、叫びみたいな感じ

<sup>7</sup> 萱野茂 (1926-2006)。北海道沙流郡平取町二風谷生まれのアイヌ民族。アイヌ文化の保存・継承のために活動を続けた。1972年、二風谷アイヌ資料館を設立(現在の萱野茂二風谷アイヌ資料館)。1994年、アイ

ヌ民族として初の国会議員となる。 <https://kayano-museum.com/> (2022年1月4日閲覧)

があるので。本当は竹内さんのお話を聞かなきゃいけないのに、すぐ結城さんのお話を聞きたくなっちゃうんですよ。で、やっぱりそれも、これ(竹内 2020)に…

竹内:彼も30歳ぐらいからアイヌ協会の、当時はウタリ協会<sup>8</sup>ですけど、の理事やってたんですけど、アイヌ協会の、その、福祉団体的な活動っていうのが納得できなくて、別に解放同盟を立ち上げたんですけど、それはやっぱり民族運動としてね。今でいう、先住権を、彼ははっきり主張していましたし、アイヌ協会のアイヌ新法案(北海道アイヌ協会 2020, 12)のもとになるような考え方を持っていましたしね。

成田:今のアイヌ新法案っていうのは、前の…

竹内:1984年の。文化振興法ができる前のやつですね。

成田:はい。で、登別の活動なんですけど、確か竹内さんの講座<sup>9</sup>で伺ったのかな?あの、儀式を復活するために、アイヌの衣装とかを作る、イナウを作るっていうので、儀式を復活させるために文化全体を、もう1回再構築するっていうお話が…。

竹内:うん、あの。再構築するっていうよりも、そういう波及効果があるっていう。それは、墓の問題でなくて、アシリチェプノミっていう、

新しい鮭を迎える儀式っていうのを札幌でやってますけど(4章1節4項参照)。

### 3-4. 民族運動の波及効果

成田:あ、そっちの話か…。

竹内:そう、そっちの話。そこに、登別のおばちゃんの話が絡まってくるんです。ある女性がいて、墓問題をきっかけに支部活動が再開されて、再開・改革運動の中心的な存在のおばちゃんなんですけどね。で、その人が、札幌のアシリチェプノミに来るわけ。地元でそういうことやってないから。そうすると、来るたびに仲間がね、衣装貸してくれる。儀式に連なるためには衣装着ないと入れませんから。持ってないから貸してくれる。最初、ありがとうって言って。それが、2回3回と続くと、「いやあ、これ、自分で作らないとなんない。欲しい」と。で、欲しいとなっても、売ってるわけでもないし。だから、刺繍を習ったわけです。覚えたわけさ。で、作った。しまいには先生になった。そういう風に、ひとつの伝統行事を復活させると、それに波及して、刺繍だとか、歌とか踊りだとか、カムイノミ<sup>10</sup>の言葉だとか、作法だとか、宗教感だとか、いろんなものが必要になってくるんです。それがないと、成り立たないわけだから。

<sup>8</sup> 1946年に認可された社団法人北海道アイヌ協会は、1961年から2009年まで北海道ウタリ協会と名称変更していた。

<sup>9</sup> NPO法人さっぽろ自由学校「遊」で開催された、竹内氏が講師の講座を指す。当該NPO法人では、人権問題から文化講座まで、アイヌ関係の講座が幅広く開催されている。<http://sapporoyu.org/> (2022年1月4日閲覧)

<sup>10</sup> カムイノミとは、アイヌの神々(カムイ)へお神酒をあげて祈る儀式のこと。以下、アイヌ語表記と日本語訳は「国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ」に従う。<https://ainugo.nam.go.jp/> (2022年1月4日閲覧)

そういったものが、こう、波及効果があったという話です。

成田: そのお話聞いたときに思ったのが、誰かからこうしなさいではなく、自分の中から湧き上がる必要だって思いが…。これが自分にとって必要だっていうので、動かれるっていうのが…。なんだろう、一足飛びかもしれないけれど、これが、誇りを取り戻すための、動きのひとつじゃないかなって。

竹内: うんうん、そうですね。で、あとね、この文章でも書いたんですけども。アシリチエプノミの場所がですね。非常にこう…。今はもう毎年やってるから、そうでもないですけども。第1回目とかは、非常にアイヌの人のエネルギーを感じたんですよ。熱気をですね。で、なんなんだろうなと考えたわけです。そしたらですね、たった1日、数時間だけのコタン<sup>11</sup>の再現なんです。アイヌの伝統社会の。

そこでは、その、アイヌの考え方が支配するわけですよ。例えば祭壇があって、その後ろ側って通っちゃいけない場所なんですよ。で、僕ら若手がですね。当時若手ですから(笑)、30何年前の話ですから。で、知らない人とか、一般市民とかが、後ろを通ろうとするんです。そりゃ当然、日本の法律では問題ない行為なんですけど。僕らは「駄目です！」って。「通っちゃいけません！」ってね。そうするとね、反論する人いないんですよ。みんな、素直に従うんですよ、わけわかんないけど。そのように、

その、普段アイヌって差別されて、いい思っていないアイヌの人たちがですね、その儀式に参加すると、一般市民とかから質問とか受けるんですね。「今、何やってるんですか？」とかね。そしたら、こうこうこうだよって、誇らしげに答えるんだよ。

そうすると、そこではアイヌであることが誇りなんですね。誇らしくなる。だから、1日だけのコタンって名付けたんです。で、そういう雰囲気の中で、登別のおばちゃんなんか、自ら刺繍をして、衣装を作ろうっていう気になったんじゃないかなって思いますね。



<sup>11</sup> コタンとは、村や集落など、人々の住む地域を指すアイヌ語である。

成田:やっぱりそういう、社会的な立ち位置の転換っていうのかな…。アイヌの人たちって、社会的な地位っていうのを、自分たちでコントロールできなくて、入植者からされてるものを…。自分たちで取り戻すっていうか、できるっていう。やっぱり、その当時はものすごく大きい…。いや、当時だから、余計大きかったのかなって。

竹内:そうですね。はい。ちょうど、その、そういう雰囲気盛り上がりがあった時期。1980年の初めのことですから。1970年代ごろから、盛り上がってきて。結果として盛り上がっていた時代ですね。

### 3-5. 北海道アイヌ協会について

成田:あ、そうそう、竹内さんのプロフィールを聞いてたんだ。登別の時って、竹内さんは、アイヌ協会の職員では？

竹内:ないない。

成田:なかったんですね。

竹内:えーっと、大学を5年行ったんですけど。5年目は大学ほとんど行かないで、ずっと登別にいて、ですね。登別で建設作業員やってたんですね。で、アシリチェプノミの復活した翌年札幌に戻ってきて。で、燃料屋さん、プロパンガスの社員で、10年ぐらい働いて。で、アシリチェプノミに関

わってたのは、協会に入る前ですね。

1993年の国際先住民年<sup>12</sup>に、1月頃かな…。当時の理事長の野村さん<sup>13</sup>から、先住民年を迎えるにあたって、その前の年ごろから非常にアイヌ協会…。当時のウタリ協会の業務が増えてね、事務局員を一人増やすということで、「竹内来い」ってことで、声をかけていただいたんです。

成田:今で言う、ヘッドハンティングですね？

竹内:僕も最初ヘッドハンティングだと思ったんですけど、違うの。労働力ハンティングだったの(笑)

一同:(笑)

成田:でも、登別からその…。アシリチェプノミや、その関わってきたのって、やはり結城さんが…。いたから？一緒に。

竹内:そうですね。はい。で、あとね。野村さんもね、あまり言葉にして言わなかったですけど、結城さんのことを、それなりに…。なんていうか、尊敬してたっていうか。ま、年は結城さんの方が下ですけど、考え方に賛同してたんじゃないかなと。で、だから結城さんが亡くなったときも、「君の想いを形にするから」みたいなことを新聞で語ってましたね(北海道新聞1983)。だからアイヌ新法案<sup>14</sup>なんて、まさにそうでないかなって。

<sup>12</sup> 国連(国際連合)が定めた「世界の先住民の国際年」。

<sup>13</sup> 社団法人北海道ウタリ協会の理事長(当時)だった野村義一(1914-2008)のこと。国連総会記念公演に招かれスピーチをした(北海道アイヌ協会2020,12)。

<sup>14</sup> 1984年社団法人北海道ウタリ協会総会において可決された「アイヌ民族に関する法律(案)」のこと(北海道アイヌ協会2020,15-17)。

ま、だから、いわば結城さんの弟子みたいな私ですから。それも、声をかけた要因のひとつでないかな。

成田:その時のアイヌ協会っていうのが、会員さんはアイヌの方ですけど、運営側はアイヌの方とアイヌではない方もいて、一緒に最初からそんな感じだったんですか？

竹内:そそそそ。

成田:あ、そうなんだ。

竹内:初代事務局長は、それこそ新冠出身の道職員で、今でいえば、福祉課みたいなところにいたんですよ、民生部みたいな。で、その方がアイヌで。で、福祉畑だっというんで、その人が派遣されて、道職員のままね。

成田:道職員のままなんですか？

竹内:そう。当時はね。で、その方が亡くなって。同じような部署から、道職員が事務局長として派遣されてきてたんですよ。で、僕の前の方の事務局長から、道職員の派遣がなくなって。プロパーになりましたけどね。前の事務局長は和人<sup>15</sup>ですね。

成田:で、アイヌ協会に竹内さんがプロパーとして入り、事務方をやり、最終的には事務局長。

竹内:そうですね。

成田:ですよ、はい。で、2015年に退職。

竹内:定年退職。

### 3-6. 誰でもアイヌになれるわけではない

竹内:で、僕の場合は、連れ合いがアイヌなんです、アイヌ協会の会員にはなれるんですよ<sup>16</sup>。ま、会員でもあります。だから、ネトウヨなんかが、誰でもアイヌになれるみたいなこと書いてますけど。なれるわけじゃないんですね。なりたくたってなれるわけじゃないし。別にならなくてもいいんだけど。あの、僕はアイヌ協会の会員資格はある。

成田:言い方としては、会員にはなれるということで、アイヌになれる・なれないとは質が違う。

竹内:ぜんぜん質が違うね。

### 3-7. アイヌ教育相談員

成田:で、その後のことが分からなかったんですけども、今されてるお仕事が教育相談員<sup>17</sup>ですよ。で、この教育相談員っていうのが、どういったお仕事がメインになるんでしょうか？

竹内:そうですね。義務教育課ですから、小学校中学校が対象になるんですよ。で、だ

<sup>15</sup> アイヌ民族に対する大和系日本人を指す。江戸幕府が用いた自称と言われる。

<sup>16</sup> 北海道アイヌ協会のウェブサイトによると、入会できるのは「アイヌの系譜を持つ方やその配偶者、そして養子（一代限り）」となっている。<https://www.ainu-assn.or.jp/newmember.html>（2022年1月4日閲覧）

<sup>17</sup> アイヌ教育相談員は「学校教育におけるアイヌの人たちの歴史や文化等に関する指導の充実のため、初任者研修・10年経験者研修などの教育研修の講師や、教育局と連携し、市町村教育委員会・学校への助言に従事する」（北海道教育委員会 2018, 93）。

から、市町村教育委員会も、副読本<sup>18</sup>なんかの出版物のアイヌに関するところの相談を受けたりしています。

成田: 一般の方から、何か相談があるのかと思ってたんですけど。

竹内: それは、拒否はしないですよ。もちろん。

成田: 相談に来てもいいよと。

竹内: もちろん。アイヌの教育に関係することとか、アイヌのことであれば、当然もちろんお答えしてます。一般の方から、いろんな質問を受けるので、それはすべて対応してます。あとは、学校の先生からとか。学校に出向いて1時間程度ですけど、授業を行ったりしてます。

成田: 出張授業?

竹内: そうですね、はい。

成田: それは、アイヌについての歴史とか?

竹内: 歴史とか、文化とかね。でも時間が短いですね。

成田: コマ<sup>19</sup>ですよ。

竹内: ほとんどがそうですね。だから、歴史のことは、あんまり深く突っ込めないんですよ

ね。例えば、シャクシャインの話<sup>20</sup>とかし出したら、その全般、関係を説明しないとね。ただ、戦いましたじゃ、子供は理解できないですから。逆効果になるから。だから、文化中心と、あとは現在に結び付くこと。伝統文化の話はするけど、現在はこうだよと。で、昔々アイヌの人が住んでいました、ではなくて、前から住んでいるし、今も住んでいます。で、あなた達の住んでいるところにアイヌ文化が根付いていますよと。例えば、地名<sup>21</sup>とかね。で、そういう話はしますけどね。で、北海道の地名は何故読みづらいのかっていうのを、考えさせるんですよ。で、そこはもともとアイヌの住んでいる、今も住んでいるけど。アイヌ語で地名付けてる。先住民族アイヌがいる。で、その後にやってきた日本人、和人が漢字を当てたから読みづらいんだと。

成田: もともとがアイヌ語だから、日本語じゃないんだよってとこですよ。

竹内: うんうん。だから、アイヌ文化知らないつもりでいるけど、地名にアイヌ文化残ってるし、日常の言葉の中にも、結構アイヌ語

<sup>18</sup> アイヌ民族文化財団が発行する副読本『アイヌ民族：歴史と現在』のこと。小学生用・中学生用・教師用がある。<https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/index.html> (2022年1月10日閲覧)

<sup>19</sup> ここでは1回の授業時間として「コマ」と言っている。なお学校教育法施行規則によれば、小学校45分、中学校50分と定められている。

<sup>20</sup> アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会(2009, 6)では以下のように説明されている。「1669年。17世紀半ば、イオルをめぐるアイヌ同士の争いがもつて

はあったが、シブチャリ(静内)のシャクシャインという長が、アイヌの人々を結集し、各地で和人の商船を襲うなど、松前藩に対して大きな戦いを起こした。この背景は、交易の交換比率の改悪や自由な交易活動の制限など様々に語られている。(中略)この戦いは、近世最大のアイヌの蜂起であった」。

<sup>21</sup> 北海道アイヌ施策推進局アイヌ政策課のウェブサイトによると、北海道の市町村名のうち、約8割がアイヌ語に由来している。

[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new\\_timei.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_timei.html) (2022年1月10日)

が入ってる。シシャモ<sup>22</sup>とか昆布<sup>23</sup>とか。そういう話をして、だから、そういう歴史的な繋がりを、理解してほしいんだけど、小学校4年生ぐらいだと、どこまで分かるか分かんないけど。結局ね、大人になったときに、ふとその時の記憶がよみがえってくれば。ああ、こういう意味で言ってたんだなっていうのが、分かってくればうれしいと思う。

成田:でも、小学校とかで、何を観るかっていうのは、その後ふり返ると、そういうことがあったっていうのは残ると思うんですよね。副読本のこと、私は北海道育ちではないので、全く分からないんですよね。で、子どももいないので、副読本を見ることもできなくて。ただ、そういう教育で学んでいくっていうのは大事だよなどは、すごく思います。はい。で、現在は、そういったお仕事をされていると。はい、ありがとうございます。

### 3-8. 非アイヌによるアイヌ民族運動の支援

成田:遺骨問題というか、民族運動の視点で、また二、三伺いたいたいです。アイヌの方の民族運動で、当事者の方が動き出さってっていうのは、大きなことだと思うんですけど、そのことに対して、アイヌのルーツはない人たちが関わるってことの、こちら(和人)側ではなくて、アイヌの側からメリット・

デメリットのなものとかって、なんかありますか？

竹内:メリットは、一般的に言って、何とっていいのか…、私の世代くらいまでに限って言えば、基礎学力というのか、知識というのか、一般的に和人の方が上なんですよね。アイヌは環境の問題もあって進学率も低いですし<sup>24</sup>、教育面からはじかれてる状況があるんで。簡単に比べると、そういう関係があって、だから、事務仕事でも何でも、力を発揮するのは和人の方で。そういった方々が入ってくると、非常にメリットは大きいですね。

ただ、デメリットはですね、そういった人たちが、逆に主導権握っちゃうと、逆効果なんです。そういうのは、いくつかの場所で見ましたし。

あと、かなり熱心にアイヌのことやってる方の愚痴を聞いたことがあるんですけど。それは、よくある話なんですけど。今のアイヌはバラバラで、まとまってくれないと。だから、僕らがいくら手を打って、手伝っても先に進まない。「違うだろう」と。そういう現実を見据えて、その現実とどう変えていくかっていう、ただ手を差し伸べるんだったら愚痴言うなど。だって、日本人だってまとまってないですよ。

### 3-9. 加害者側の人権救済

<sup>22</sup> シシャモはアイヌ語のスサムに由来する。柳の葉がこの魚になったという伝説がある。

<sup>23</sup> 昆布はアイヌ語のコンブに由来する。

<sup>24</sup> 高校への進学率は、北海道市町村では98.8%に対してアイヌは95.1%、大学進学率が45.8%に対して33.3%。過去の調査に比べ差は埋まりつつあるが、いずれもアイヌの進学率は低い(北海道環境生活部2013,6)。

竹内:後、もう一つは、いわゆる「アイヌ問題」っていうのは、アイヌが原因じゃないんですよ。ご存じの通り。日本人側の問題なんですよね。原因なんですよね。だから、原因を作った側が責任があるんですよ。だから、それ、自覚したうえでやってもらわないと困るんですよ。だから、遺骨問題とかも、一生懸命、熱心にやってる方でも、そういうこと言いますね。

成田:そうなんですよ。やったのは間違いなく、アイヌではなく和人側なんですよ。

竹内:ん、であの、話ちょっとズレますけれども。差別の問題なんかも、よく、その、今までは、部落解放同盟<sup>25</sup>なんかも、被害者、被差別者の救済みたいなことを強く言ってる。それはそれで、当然なんですけど。で、同和教育<sup>26</sup>みたいなこともやって、部落問題もかなり理解は進んで、差別も減ってきてると思うんですけども、でも、他人事なんですよ、学んでいる子どもたちが。こういうかわいそうな人たちがいると。で、差別はいけないんだと、私はしななんだと。で、安心して、終わりなんですよ。

違うんですよ。差別を止める側に回らないといけない、自分の問題として。他人

事ではないんだ。だから、私の従兄弟なんか、部落だつての知らないで学校で教育受けて、同和教育受けて、それで安心してたんです。で、いざ、部落だつて言われたときに、びっくりしちゃってるんですよ。だから僕は言うんだけど…、被差別者って言葉があれば…、加差別者。差別を加えるもの。加差別者の人権救済って言ってる。差別をしちゃいけないっていうのは世界共通の認識なんですね<sup>27</sup>。でも、してしまう人はいるんです。と、言うことは、その人は人権感覚がゆがめられているんです。周りからね、ちっちゃいころから、親や周りの大人によって偏見を植え付けられているんです。だから、その人を救わなければいけないんです。だから、加差別者を救うことによって、被差別者の被害が減るんです。だから、逆だと思うんですよ。

ということで、話戻ると。アイヌ問題は自分の問題だと、そうなんだと。

成田:そのアイヌ問題って、アイヌを取り巻くすべての、色んな事も自分の問題ってことですよ？

竹内:そうだね。障害者問題とかね、他のことにも言えることですけどね。そういいながら、日々反省してます。じゃあ、お前はどうか

<sup>25</sup> 部落解放同盟のウェブサイトでは、「日本社会における部落差別の撤廃を基軸とした取り組みを通して、あらゆる差別の撤廃をめざしながら、国内外の人権・平和・環境を中心とした社会正義を追求する運動体である」と説明されている。前身は1922年に結成された全国水平社。その運動を引継ぎ1946年に部落解放宣告委員会が結成され、その後1955年に部落解放同盟に改称され現在に至る。<http://www.bll.gr.jp/aboutus/koudou-shishin.html> (2022年1月6日閲覧)

<sup>26</sup> 部落差別・同和教育の解決にあたっての教育対策。詳細は文部科学省(1992)を参照。

<sup>27</sup> 国際連合で1965年に「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」が採択され(国際連合1965)、日本は1995年12月15日に加入した。<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/table.html> (2022年1月25日閲覧)

なのよってね？ 女性問題とか、障害者問題とかね。どうなのよ？ どういう態度なのよって。ごめんなさいっていうしかない…。

成田:確かに。べき論で話をしてしまうと、じゃあお前はどうかだあって、なるので。じゃあ、ここで「私は何ができるんだろう」と…私は分からないので、本当に。2002年に北海道に来て、初めてアイヌの方にお会いしたので。それまであったこともないんです。アイヌの方が学校でいじめられたとかっていうのも見てないので。そのことが、気付かずに何か差別的なことをしてしまうんじゃないかってことは、いつも不安を持ってはいるんですけど。どうしたもんかな、と。

竹内:そんなのは、あんまり気にしないでいいんです。

成田:そうなんですか？

竹内:そりゃ、そうしてしまった時は、素直に反省して謝るしかない。そんな、完璧にできることなんてないんです。そうしないように気を付けるって、ね。意識を持ってるだけでいいんじゃないでしょうかね。

こんな偉そうなこと言ってるけど、結構間違いを犯して、今言った言葉駄目だなあって。ありますよ、そりゃ。

成田:そうなんです。私も何人かアイヌの友達がいるんです。もう本当に個人的なことを言ってしまうと、友達の間にはアイヌかアイ

ヌじゃないかっていう膜が入っちゃうのが、とてももどかしいんですよ。でも、その膜は、やっぱり確実にあるなって感じるんですよ。その人が心のない一言で傷つくことがある。その人が傷つかないと、私は気づかないから。そこらへんが…、あ、ごめんなさい、すごく個人的なことです、これって。

### 3-10. 遺骨返還

成田:私、科学・研究が犯してしまった、その齟齬の象徴が遺骨問題だになって、そこにすごく出てるって思ってるんです。で、私は東北の出身で、家督だったので、お墓を守らなきゃいけない人だったんですよ。で、ここに来て、先祖の遺骨が今自分たちの手の届かないところにあるっていうことに対して、ちょっと衝撃を受けたんですよ。同じ考え方ではないけど、私の常識で考えると、何がなんでも取り戻したいって思うのは当然だと思うんですけど。それが、研究・教育機関にあるがゆえに手が出せないってというか、一応返還しますよってなってるけど<sup>28</sup>。返還が進まないっていう、この状態が…。なんて言っているのかな、もちろん良いわけではないんですけども。それを、こちら側が、こうしたらいいでしょって言える話でもないなって。

そこの辺って、アイヌの中でもみなさん色々意見があると思うんですけど、竹内さんから見て、アイヌ協会のスタンスとか、

<sup>28</sup> 地域返還の申請に関して「当該出土地域に縁のあるアイヌの人々による確実な慰霊等が可能であると認められるものに限る」とされている（内閣府 2018, 4）。

協会員だけど別の方のスタンス、例えば木村さんみたいに全部返せっていう方とか見てて。どういう風に、アイヌの方々は…。あ、アイヌの方々はって言っちゃいけないですね、みんなそれぞれなんで。どんな意見があるのかっていうのは、聞いてますか？

竹内: 様々な意見があるのは事実ですね。例えば道南のある地域の場合。そこは、かなり遺骨が…。

成田: はい。大量に。初期の頃ですね。

竹内: で、あそこは返してほしくない。ま、全員の意見ではないですけどね。組織の幹部の話を見ると、「自分たちの時代はいい。供養する」と。仮に還ってきたとするとね。でも、「子どもや孫の代まで、どうするか分からない」と。だから、「白老の慰霊施設で、年に1回、全道のアイヌが集まってくる<sup>29</sup>からそっちの方がいいんだ」と言う人たちもいます。かたや木村さん<sup>30</sup>みたいな方もいらっしゃいます。

で、問題は還す還さないでなくて、やっぱり、蒐集の時が問題で、要するに盗掘<sup>31</sup>みたいな感じで、アイヌの骨なら何でも

いいやなんですよ。誰の骨だろうがね。で、また、骨だけになりきってないようなものまで、掘り起こしているわけだからね。だから、誰の遺骨か分からない遺骨が多いんですよ<sup>32</sup>。地域は分かってもね。後、バラバラになっちゃてるのもあるし。だから、還しようがない骨がいっぱいあるんですよ。で、北大なんかは研究者がいませんから、骨に関係する、ね。で、いないものだから整理するのに、琉球大学とか、余所から招いて、整理したんですね<sup>33</sup>。

だから、それぐらい、北大ですら骨は要らないんです。要らないから還してくれって、引き受け手がいれば大助かりなんですね。で、最初国はですね、非常に厳重な考え方で、祭祀継承者が、はっきりしないと還せない、ということ言ってたんですけども。札幌の地裁ですね、和解案が出て、地元に戻していいと。遺族でなくとも、地元でいいんだという和解案が出て、北大は助かったんじゃないですかね？ 賠償はしない。謝罪もなし。お金も出さない。一切ない。だから、骨を還すだけ。骨を還しに持っていく手間暇だけなんですよ。こんないい和解案ないですよ。もともと要ら

<sup>29</sup> 年に1度、ウポポイに併設された慰霊施設で北海道アイヌ協会が鎮魂式並びに慰霊式（カムイノミ・イチャルパ）を実施している。https://www.ainu-assn.or.jp/outline/files/09b9921b5c0299db540530c1d17402c4d8c8455d.pdf（2022年1月6日閲覧）

<sup>30</sup> 全ての遺骨の返還を求めている木村二三夫氏のこと（成田・川本 2022b）。平取町のアイヌ遺骨返還を実現させた中心人物のおひとり。

<sup>31</sup> 盗掘の詳細は土橋（2017）、植木（2017）等を参照。ウポポイのウェブサイトにも「発掘・収集時にアイヌの人々の意に関わらず収集されたものも含まれて

いたと見られています」とある。https://ainu-upopoy.jp/facility/cenotaph/（2022年1月7日閲覧）

<sup>32</sup> 北海道大学の報告書には「旧アイヌ墓地から発掘したアイヌ人骨を、誰の先祖と特定することは一般には不可能である」と記されている（北海道大学 2013）。

<sup>33</sup> 北海道大学が保管する遺骨の整理に、琉球大学が協力したことを示す資料等は見つからなかった。しかし、毎年開催される「北大イチャルパ」のうち、筆者が参加した2019年からの3年間は、琉球大学の教授が招かれている。

ない骨、なんとか処分しただけですから。と思うんです。その辺のことは、マスコミも一切書いてないですけどもね。

還ってきたって、喜んでばかりしか書いてないですけどもね。アイヌ協会は、もともと、まず返還すること。還せるものは還すことと。当初から北大と交渉した時でもありますね。当初から、各支部ですけど、該当支部に、返還を希望するかどうかってことで、四つぐらいですかね。旭川とか釧路とかね<sup>34</sup>。希望する通り還してますよね。

成田:だからあの、地域なり、個人なり、還してくれと言われればお還しするけれど、それ以外は慰霊施設で年に1回ですかね？  
アイヌ協会で…

竹内:17日にやってますよね<sup>35</sup>。今年の、今月の17ですね。

成田:10月の17日ですね。あれは、イチャルパ・カムイミ<sup>36</sup>って言ってましたか？

竹内:イチャルパ・カムイミって言ってたかな？イチャルパですね。供養祭。

### 3-11. 遺骨を使った研究

<sup>34</sup> 1985年、旭川支部と釧路支部に返還。1987年、帯広支部に返還。1995年、三石支部に返還。2001年、門別支部に返還。これ以降は、裁判の和解による引き渡しが続く（北海道大学2013）。

<sup>35</sup> 2021年10月17日に慰霊施設で鎮魂式が行われた。北海道アイヌ協会の大川勝理事長が、返還後も誠意ある対話を求めていくことを述べ、北海道大学の山本文彦副学長は、今後も責任をもって協力していくと述べたと報道されている（NHK2021）。

<sup>36</sup> 国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブではイチャルパと記載されているが、「北大イチャルパ」の表記に従う。イチャルパは、先祖供養のための儀式。

竹内:で、問題なのは、DNAとかの研究に使うか使わないかという。というのが、非常に微妙なところがあつてね。ま、確かに研究成果はそれなりに出てるんでしょうけどね。たとえば、沖縄とDNAが近いとか<sup>37</sup>、ふたつぐらい違うとか。違いを大きくとらえるのか、近いというのを大きくとらえるのか分かんないですけど。そういった研究とか、そう意味での成果は出てるんでしょうね。

ただ、アイヌにとってそれが必要かどうかというの、考え方は色々あつて。で、例えば自分の先祖のね、遺骨を削られてやるとなったら、たまらないと思うんです。だから、難しいですよ。

成田:研究って、今までのアイヌ研究っていうのが、ほぼアイヌではなく和人側とか海外もそうですけれど、アイヌの外から研究してた。で、それがアイヌのためになるのかどうなのかっていうのは、多分考えられてなかったんじゃないのかって。

竹内:ああ、全然、全然。児玉作左衛門<sup>38</sup>の研究ですが、あんだけ、骨集めて一生懸命計測して、結局それがほとんど役に立たなかっていう。形とか容量とか調べれば、民

<sup>37</sup> アイヌ、本土、琉球の3人類集団のうち、アイヌと琉球は近縁であることをDNAの分析から明らかにした。なおアイヌについては1980年代に平取で採取された36名分の血液サンプルが用いられており、今回の発表に先立ち現地での説明が行われた（東京大学2012）。

<sup>38</sup> 児玉作左衛門（1895-1970）。北海道大学教授として、1933年頃から北海道、樺太、千島でアイヌ墓地を発掘し遺骨と副葬品を収集した。

族の特徴が分かるんじゃないかっていう推定のもとで、一生懸命やったんですけどね。

成田: えっと、形質人類学ですよ、それって。

川本: はい。

成田: その時のそれで、そういうのに沿ってやったけど、結局何も、答えもなければ…。

なんていうのか…、アイヌの文化の、目に見えるものであるのに、そこに美しいとか、世界観があるとか、そういうことじゃないことが付随しているのが、なんかちょっと…本当に残念。単純に、凄いコレクションで綺麗だよって言いきれないところが、なんか、あと引くんですよ。見てきた結果として。

竹内: まあ、確かに凄いコレクションですよ。

### 3-12. 残ったのは還せない遺骨と副葬品

竹内: 結局、彼が残したのって還せない遺骨と副葬品ですね。買い求めたのも結構あるでしょうけど。どっからどこまでが、墓から持ってきたものか。児玉コレクション<sup>39</sup>として有名ですけどね。函館<sup>40</sup>と白老<sup>41</sup>の博物館にありましたけれどね。

成田: 副葬品も…。あの、函館の博物館に行ったことあるんですよ。すごく綺麗なものが多かったかと、いう感想です。で、これが副葬品なのか、買ったものなのかが分からないっていうのが、…その、やっぱり、ものをただ観るだけじゃなくて、何でここにあるのかなって考えたときに、物凄く微妙な気持ち、ざわつくっていうのかな…。

### 3-13. 児玉作左衛門の功罪

竹内: まあ、児玉作左衛門、いいこともやってるんですよ。知里真志保<sup>42</sup>、助けたりね。

成田: 知里真志保さんをですか、あの？

竹内: 知里真志保が北大に務めて、その時に児玉作左衛門医学部の教授でいましたから。で、知里真志保が論文とか、博士論文かな。で、本人が言うのには、「このアイヌ語の関係の論文、誰が見るんだ」と、「見れる人はいないべや」みたいなこと言ってたんですけども。で、児玉作左衛門が後押ししたんです。だから、そういういいこともやってるんですよ。

成田: 結局、一面だけの人っていないと思ってるんですよ。だから、誰かを貶めようとして

<sup>39</sup> 函館博物館所蔵の児玉コレクションと呼ばれる資料に関しては、学芸員の矢野京右氏が行った調査が詳しい(大矢 2017)。

<sup>40</sup> 函館市北方民族資料館のこと。児玉コレクションを所蔵している。<http://www.zaidan-hakodate.com/hoppominzoku/about.html> (2022年1月7日閲覧)

<sup>41</sup> 白老町にあった旧アイヌ民族博物館。ウポポイ整備に伴い2017年3月閉館。運営団体である一般財団法人

アイヌ民族博物館は、2018年4月にアイヌ文化振興・研究機構と合併し、名称を公益財団法人アイヌ民族文化財団と改めた。<https://www.ff-ainu.or.jp/web/overview/about/circumstances.html> (2022年3月7日閲覧)

<sup>42</sup> 知里真志保(1909-1961)。北海道幌別郡登別村(現登別市)出身のアイヌ民族の言語学者。1954年に北大で博士号取得。姉は『アイヌ神謡集』で知られる幸恵。

っていうのではないんだけど、結果そう  
なっちゃとしても、誰かのためって思ったこ  
とが、成功することもあるんじゃないかなー  
とは、思いました。

竹内:ただね、あの。医学部の研究室に、バック  
にですね、こう。頭蓋骨を並べてる、で  
すね。その前でニコッと写真撮って新聞で  
てる児玉作左衛門を見たときには、ざわっ  
としましたね。ま、あれが仕事っちゃいえ  
ば仕事ですけどね。

成田:児玉さんの話で調べると、必ず出てきま  
すよね。あの写真が。しかも、新聞記事の  
転写みたいな感じで、ちょっとおどろおど  
ろしくなってる…。

竹内:ま、だから、科学者としての気持ちと、あ  
とはやっぱりアイヌ蔑視の気持ちがあった  
から、自分を正当化できたんでしょうね。

成田:やっぱり、それ、ありますよね。私も考え  
てて、なんでこんなひどい集め方ができた  
のかなって言うと、そもそも、そのアイヌの  
方々に対する、配慮を欠いたことをし続け  
ているわけで。差別的な意識が働いたっ  
てことは、あると思うんです。それで、骨を  
いっぱい集める。で、そうすると、さらにま  
た、アイヌの方に対する研究材料感的な  
見方があって、良くないループがどんど  
んと、あつたんだなど。和人の社会と  
アイヌの社会という分け方がいいのか、分

からないですけど。あの当時はそうだっ  
たのかなあ、と。

### 3-14. 現代のアイヌ研究？ 誰のために？

竹内:でしょうね。最近の話でもあるんですよ。  
もう、何年前ぐらいかな、10年か20年か  
前ぐらいかな。忘れたけど。東京の方か  
ら、アイヌの人の尿を調べたいと。

成田:尿？ おしっこ？

竹内:そう。おしっこ。だから、DNA 研究と、ま  
あ、共通するところがあるんですよ。専  
門的なことはよう分らんけども。で、それ  
を調べたいと。で、いやそれは難しいわっ  
て、断ったら、「いやいや、アイヌのために  
役に立ちますから」って強く言ってたけど。  
だれ…、そんなの協力する人、おらんべ  
やと。

成田:難しいですよ。

竹内:それでもうちよつとね、こうね。詳しく、な  
んか概要でも書いて、手紙でもくれて頼む  
んだらいいけど、電話1本できましたから  
ね。だから、コリヤ駄目だと。で、その後来  
ませんでしたから。だからそういうのも、ど  
っかに蔑視感があるんでしょうね。本人は  
気づいていないでしょうけども。

で、話逸れますけれど、日本テレビの『ス  
ッキリ』<sup>43</sup>も、あれも潜在意識の中に蔑視  
感があると思うんですよ。対象がね、欧米  
人やなんかだったら、あんなふうに通らな

<sup>43</sup> 日本テレビ制作の朝の情報番組。2021年3月12日の  
放送であった差別発言を指す。経緯については放送倫  
理・番組向上機構(2021)を参照。

いですよ。だって、担当も大丈夫かなと思ったし、上部のチーフプロデューサーも、これヤバイと、放送見てね。オンエア見て感じたらしいんですよ。あと、もう一人はギリギリかなと。そこまで感じてるのに、これは担当がチェックしてるので大丈夫だろうと。だろうで、済ましているんですね。そんなの、対象がアイヌでなくて、イギリス人とかフランス人とかアメリカ人とかだったら、そこで絶対にチェックが入りますよ。だから、それが、蔑視感ね。悪いことに、「犬」っていうのは江戸時代から使われてるんですよ。

成田:アイヌの方の蔑視用語として?

竹内:そうそう。犬と人間の混血みたいな言い方してね。だから、こき使ったり馬鹿にしたり、搾取してもいいんだっていう論理なんですね。江戸時代から使われて。だから、本当に古典的で、アイヌは最も嫌がる言葉ですね。

成田:さっきあった、研究。アイヌのために役に立つ研究。この「ために」っていうのが、いったい何なのかなっていうのを、今ちょっと、考えていたんですけど。

竹内:ああ、あの人、名前ど忘れしちゃったけど。DNA 研究の人。彼が言ってるらしいんですけど、DNA 研究がアイヌが先住民族の証明になると。

成田:いやもう住んでるんで。

竹内:そう、そういう問題でなくて。いつからどこにアイヌが住んでいるかという問題って、

関係ないんです。先住民族って先に住んでて、あとから来た集団に侵略、抑圧されて被害を受けてるグループだから。何年前からいようがいまいが、どっから移動して来ようが関係ないんです。

成田:そうなんです。後から入植というのか、侵略というのか、ちょっと微妙ですけど。来たときにいたっていう。その時にいたっていうだけでもう…。

竹内:いつからいるかって、関係ないんです。

成田:でも研究とかになると、どうしても、もっと先まで明らかにしたいと。だけど、それって、アイヌのためじゃなくって、やっぱり研究のためになってしまってるんじゃないのかなって、思うこと多々あるんです。

### 3-15. 孤立言語のアイヌ語と日本語

竹内:あと小学生から質問を受けたんですけど、アイヌ語ってどうやってできたんですかって。そんな、わからないって。でも、まあ、確かに親戚がない言語らしいって。変わった言語らしいですね。

成田:日本語も、変わった言語らしいですね。

竹内:日本語も変わってるけど、アイヌ語もね。親戚いないっていうね。

成田:そう。ぜんぜん違う孤立言語がふたつあるみたいな。

竹内:で、面白いことにね。沖縄が日本語の方言<sup>44</sup>っていうね。あれは面白いですね。なんでかなって。距離的には沖縄の方が遠いんだけどね。あれ、面白いですね。

成田:沖縄の言葉が、一応、日本語の方言だって言われたときに、津軽の言葉も方言なんですよ、っていうのを聞くと、まあ、そうなるねって思います。津軽の言葉は私、分かんないんですよ。

竹内:うん、本当聞き取れない。

成田:ほんと聞き取れない。なに言ってるか分かんない。

竹内:フランス語みたいですよ(笑)

成田:(笑)小学生の時、東北に住んでいたのに、NHKで津軽弁が流れたときに、字幕を読んだんです、私。分からなくて。その時おじいちゃんとかおばあちゃんいたんで、方言は今よりも、凄くきついんですよ。だけど、その中で育っているにも関わらず、津軽方言は分からない。でも、あれが方言なら、琉球の言葉が方言ってのは、分かるんだけど。アイヌ語になると、もう、そもそもの文節?

竹内:文法が違う。

成田:ちょっと教えてもらった時に、私には無理だな、と。英語と一緒に無理な感じがしました。

竹内:でもあれ、語順はほとんど日本語と一緒になんです。だから、そういう意味では、学びやすいですね。だから、単語を直訳していくと変換できるんですよ。英語とかは、語順がバラバラですよ。ああいうこと、ほとんどない。例外的に、ひとつふたつありますけどね。

成田:そうなんですよ、アイヌ語。

そう、アイヌ語っていえばなんですけど、ちょっと…。ウポポイ<sup>45</sup>を代表例にだしますけれど。ウポポイって、アイヌ語ではないですよ？造語ですよ。ウポポ<sup>46</sup>と、イが…私には分かんないんですけど。あれって…いいのかな？いや、いい悪いじゃないのかもしれないけど。言葉って変わっていくものはあるので、それはいいんですけど。あれを、「ウポポイはアイヌ語です」っていうのを見るたびに、なんか違和感を感じるんですよ。

竹内:まあ、現実的に変な言葉を作っちゃいけないですよ。自然発生的にできるのはいいとしてもね。で、あれ、愛称を公募したんですけど、最初からみつつぐらい案があって、そのどれにするか選べっていう

<sup>44</sup> 沖縄県各地域の言葉は、文化庁ホームページ「消滅の危機にある言語・方言」では方言とされているが、ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、「言語」と「方言」を区別せず、全て「言語」で統一している。沖縄の言葉は東京の言葉と姉妹関係にあるが、沖縄が日本に所属することをあらわす社会的・政治的基準の働きにより「方言」と呼ばれている（木部 2011）。

<sup>45</sup> ウポポイのウェブサイトには、「愛称「ウポポイ」は、アイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」を意味します」とある。<https://ainu-upopoy.jp/facility/upopoy/>（2022年1月9日閲覧）

<sup>46</sup> ウポポは、座り歌、輪唱歌のこと。

47。で、ウポポイになったっていう話なんですけど、言語学者がおかしいと指摘してて。

成田:これで、アイヌ語ですって…。いや、「最初はこれとこれを合わせて作った言葉です」だったんですが、どんどん進んで「アイヌ語です」になるから。いや、これはまずいんじゃないのかなと。

竹内:まずいですよ。

成田:今、仰ってた、自然発生的に出るのは、それが文化なので、いいというか、まあそういうものだよなってなるんですけどね。

### 3-16. イランカラプテ・キャンペーンの誤解

竹内:イランカラプテ・キャンペーンだって、あれ、誤解から始まってますよ。萱野先生が「あなたの心にそっと触れさせてください」って、イランカラプテの言葉を分解できるっていう(萱野 2002, 82)。

成田:え？

竹内:イランカラプテって「あなたの心にそっと触れさせてください」っていう意味なんだと、萱野先生が仰ったんですけど。

成田:え？ 分解すると、そう？

竹内:そう仰ったんだけど、言語学者に聞くと、そういう風にはならないと。文法的に無理だと<sup>48</sup>。だから、そういう思いでいるのは構わんけど。そういう風に説明するのは、アイヌ語として、まずいと。で、そういうこと知らないで、ある委員がそういうこと聞いて、いい言葉だと。これ、キャンペーンに使おうと。で、国の会議で決まったんですね。

で、決まった直後に、下の段階の会議で、僕らも呼ばれて行ったら、それが始まって。で、官僚の名刺に「あなたの心にそっと触れさせてください」と訳が書いてあって、「これ間違ってるぞ」と。「そういう思いで使いましょ」というのなら構わんだろうけど。「そういう意味です」っていうのは間違いだから、やめたほうがいいって。でも、イランカラプテ・キャンペーンは決定してますから、名刺だけ変わっている。

成田:しかも、イランカラプテ<sup>49</sup>って、エカシ<sup>50</sup>同士が挨拶する時の枕詞みたいに使われるもので、女性は使わないっていうのを聞いたので。え、ちょっと待って、私いいのかな？ イランカラプテとか言ってるって思ってる。

竹内:まあ、ここまで来ちゃったんで。だから、小学校とかで説明する時は、本来は厳粛

<sup>47</sup> 投票対象として「ウタルニ：仲間がいつもいるところ」「ウヌカリ：人が出会うところ」「ウポポイ：(おおぜいで)歌うところ」の3案が示され2018年10月26日から11月11日まで投票が行われた(文化庁2018)。

<sup>48</sup> 「イランカラプテ」キャンペーン推進協議会ホームページでは、言葉の意味としてではなくキャンペーンのメッセージであるとしている。

<http://www.irankarapte.com/content/outline.html> (2022年1月9日閲覧)

<sup>49</sup> 国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブによればイランカラプテは「家に通されて席についてから、男子が一定の作法をもって挨拶するときの、きちんとした挨拶語」とされており、参考として萱野氏の解釈も付記されている。

<sup>50</sup> エカシとは、年配の男性(翁)、祖父などを指す。

な言葉で、軽々しく使ってはいけないんだけども、そういった意味合いを理解したうえで、おもてなしの言葉として使いましょうというキャンペーンですよとは、言ってる。

### 3-17. 潜在的なアイヌ蔑視

竹内:道新の読者の声にも書いてあるんですけど、ウポポイもできて、アイヌ文化が脚光を浴びて、アイヌ語名を付けた商品がいくつか発売されてるんですけど。アイヌ語の意味がね、結構いい加減なのがいくつかあるんですよ。だから、アイヌ蔑視なんですよ、潜在的な。

成田:大切な言葉であるはずなのに、それを、ゆがめて違うようにして使っても構わないって、思っちゃってる？

竹内:アイヌ文明とかね。あと、アイヌ関係の研究とかも、かなりいい加減なのがあつてですね。知里真志保なんか、そうとう怒って、文章書いてますけどね。現在のいい加減な商品名だとか、まだまだ、奥にはあるんでないかなと思いますけどね。自分たちの言葉、日本語で変な商品名付けたら、嫌でしょうね。

成田:うん。なんか、違和感しか残らないみたいね。

竹内:買いたいと思わないですよ、そんな商品ね。

成田:例えば、お芋の商品に…、えっと…

竹内:「おなら」とかね。

成田:そんな感じになっちゃうんですよ…。

竹内:だから、ナイフや包丁に「腹切り」とかね。

成田:や、いやいやいやいや。

竹内:買わないですよ？ そういう世界なんですよ。

成田:でも、日本人というか、私たちは分からないから、その語呂だけで、なんかいい雰囲気。ま、日本人はアイヌ語の単語、好きだって、ピリカ<sup>51</sup>とか、そういう響きが好きだっていうんで、それで付けちゃうと、まったく違う。で、違和感を感じられない。知らないから。でも、それでいいと思っちゃってること自体が、差別というか、蔑視。

竹内:名前つけて商品売る側も、その説明受けて記事にする記者も、確認しないんです。ちょっと確認すれば済むことなのに。今なんてインターネットもあるし、電話でアイヌ協会でもいいし、アイヌ文化財団でもいいし、ウポポイの学芸員でもいいし、ちょっと聞きゃ済むことなんだけど。それすらしてない。

### 3-18. 研究が影響を及ぼす社会

成田:ですね。今日のお話伺っていると、研究っていうのが、学术界だけで終わらないというか、閉鎖してないっていう。やっぱり、社会の状況が凄く影響して、で、その研究し

<sup>51</sup> ピリカとは、良い、美しいという意味。

たことによって、またそれで社会に、遺骨問題でいえば、良くない影響を、やっちゃっていいんだっていう。断らなくても墓暴いてもいいんだっていうみたいなことになっちゃうと、負の連鎖がどんどん繋がるから。それは、この先どうやって行くかっていうのは、凄く地道な努力を、こちら側とか和人側もしていかなないと。律していかなないと、自分たちを。

それで思い出したのが、研究倫理。アイヌ協会と考古学学会と…(北海道アイヌ協会他 2019)。あの、意見募集してましたもんね？ アイヌ協会で。ああいったことが、もっとされていくと、少し良くなるとか思われますか？

竹内:んー。どうなんでしょうね。

### 3-19. 誰がアイヌか問題

成田:あと、誰がアイヌかっていうとこなんですけど。どうやってそれを、特定っていうか。



<sup>52</sup> 日本の植民地下の朝鮮に対する皇民化政策の一つで、朝鮮人の固有の姓を日本式の名前に改めさせようとした政策。1939年(昭和14年)公布。1945年(昭和20年)消滅。アイヌ民族に対しては、日本式の名字を作ることになる。アイヌ民族の戸籍編入は1876(明治9年)ごろに完成したとされている。レファレンス

気づいてない方も、今沢山いらっしゃると思うんですよ。あの、敢えて教えないとかいうのが、あったので。となると、「私はアイヌです」と、自分で言ってる方もいれば、言っていない方もいる中で。じゃあ、アイヌって誰ですかって。アイヌ民族、います。今もいます、前からいました。OKです。でも、個人として、誰がアイヌですかっていうのって、どういう風に決めるとか、認定とかって言葉が変ですけど、どういう風に理解していけばいいのかと。

竹内:ま、ぶっちゃけていうと、外部の第三者が決める問題でなくて、当事者が決める問題なんですね。だから、そこから、あーでもないこーでもないは、要らないんですよ。で、血筋の問題でいえば、戸籍とか除籍簿とかで、かなりの部分で遡れるんですね。要するに、明治になってから戸籍法ができて。アイヌも戸籍に取り込まれていったんですけど。その時の戸籍を見ると、要するに、戸籍ができる前から、生まれて生活していた人たちは、当然アイヌ語名で生活しているわけです。で、後から戸籍ができるから。そのアイヌ語名のまま戸籍に載るわけですよ。当然名字もないままに。

成田:アイヌの方は名字無いんですよ。

竹内:そう。あとから創氏改名<sup>52</sup>なんですよ。

そういった、その、主にカタカナのアイヌ語

協働データベースに事例詳細

[https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref\\_view&id=1000199779](https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000199779) (2022年1月10日閲覧)

名の先祖が出てくるわけです。100年ちょっと遡れば、で、それが除籍簿やなんかで、ほとんど遡れるんです。ただ、一部戦争やなんかで焼けたりとかで、手に入らない地区とかもあるんですね。あとは、道東の方で言うと、標津とか、ロシアと近いものだから、早くから日本人化政策が、進んでいて、名前も戸籍ができる前から日本語名になったりして、アイヌ語名が出ないところもあるわけです。ごく一部には、そういうところもあるんですけど。

ただ、かなりの部分、90何パーセントかは、遡れるんですね。そういうことでも、証明できないことはないですね。で、後さらに、前は旧土人とか書いてあった欄があったんで、その戸籍は全部封印されて見れないんですけど。法務省には保管してあるんです。壬申戸籍<sup>53</sup>とか。で、差別の問題とか人権侵害とかの問題で、一切出さない。で、あれが見れば、一部戦争なんかで焼けた役所のところも出てくるんで、見れるんですよ。ただ、誰が誰だか分からないって政府とか、ネトウヨは言ってるんだけど、それを見ればもう99%以上分かるんですよ。

成田: 誰がアイヌかっていうのは、まず本人がアイヌであると認識することが大事だけど、あの、第三者から見て分るものっていうのも、戸籍で99%は、

竹内: 分かる。

あと、文献とかね。標津の方で分かったのは、戸籍ではわからなかったんですよ、今言ったような理由でね。ところが、その人の先祖がアイヌ語の研究に協力して、それで文献に残ってるんです。誰々さんから、こういう話を聞いたとかね。

成田: 協力してくれたアイヌの人で、こういう人がいたって。

竹内: ま、日本語名なんだけど、それに繋がるってことで、これは間違いないと。

成田: あー、なるほどね。

竹内: そういうことですね。あと、松浦武四郎<sup>54</sup>とかね、記録とか。色々複合的に合わせると分かる場合もあります。あと、最終的には、やっぱりその地域ですね。それぞれ古くからの繋がりを持っているから、あそこは間違いないよという話でいいんじゃないかと、僕は思うんですけどね。

成田: 結局のところ、それが一番強いんじゃないかなとは、思うんですけどね。

竹内: アイヌの権利とか、アイヌを認めたくない人は、そういうところでイチャモン付けてきますけどね。

成田: そうですね。そういう人もいますよね。

竹内: だから、連れ合いの先祖の除籍簿なんかも、アイヌ語名がバンバン出てきます

<sup>53</sup> 明治政府による最初の全国的戸籍。族称の記載があったため、同和問題（部落差別）があるため、1968年から閲覧禁止となる。

<sup>54</sup> 松浦武四郎（1818-1888）。探検家、地質学者、作家であり、北海道の名付け親でもある。北海道（蝦夷地）は13年間に6回の調査を行い、『初航蝦夷日誌』『知床日誌』などを出版した。

よ。そういうのは、講演なんかでは資料としては配布しないけれど、パワーポイントで、こう個人情報に分かんない程度に。こういう名前が出てますよと。

成田:で、ここにこの名前があるので、アイヌ語名で

竹内:アイヌ語名で出てで、で、改名して、今日本語名でこうなってますと。で、名字の方もあとから書いてある。創氏改名ですねって話。

成田:戸籍は名字でひとつのくり、にするから。

竹内:前は、大世帯の一家族全部載ってたでしょ<sup>55</sup>。例えば、爺ちゃんが戸主で、長男なんかも夫婦が子どももいるんだけど、それも戸主の中に、一戸籍で。今は分かれていますけどもね。家族ごとに。

成田:この前それを聞いたばかりなんです。すごく日本独特のシステムで。

竹内:そうそう、そうらしいですね。僕は、これしか知らないんですけど。

成田:らしいんですよ。

なるほど、そこで大体分かってくるということですね。

### 3-20. アイヌ民族の誇りとは

成田:あとですね、もうひとつ。ちょっと話ズレちゃうんですけども、お伺いしたかった

ことで、その、アイヌ民族の誇り、尊厳って、どういう状況になれば、尊厳が保てる。どういうことで、誇りが…。誇りがあるというのはどういう状況か的な話を、ちょっと聞いてもいいですか？

竹内:んー。難しいですね。ま、簡単に言えば、あれじゃないですかね。アイヌがアイヌとして生きる、生きられる。アイヌを選択するのも本人の自由で。選択しない人はアイヌでない者として生きればいいんで。今はね、第三者から差別的な扱いをもってアイヌと断定されることが多いですね。うちの息子なんか、その、血の割合から行けば、日本人の血の方が濃いはずなんですよ。ね、少なくとも1/2なんです。僕が父親で、母親がアイヌですから。だから、母親の血の方を辿らないにしても、少なくとも1/2なんです。なのに、もう100%差別的言動をもってアイヌと断定されるわけさ。子どものころから。だから、そうじゃなくて本人がアイヌとして生きたければアイヌで生きる。アイヌとして生きるって言ったって、今の社会だとアイヌ語を学ぶ機会もほとんどないし、伝統社会なんかもうないですしね。だから非常に…。それが、ひとつですね。

あとは、先住民族として、きちんと芯から認めると。ね、文言だけじゃなくて。日本式先住民族でなくて、芯からね。法律で先住民族って明記してるんですけど、先住民族とは先住権とセットなのに、先住権抜

<sup>55</sup> 旧戸籍法は、家長（戸主）を中心とした一つの「家」を単位として編成されていた。1947年、民法が

全面改正され、夫婦と氏を同じくする未婚の子を単位とすることになった。

きなんですよ。絵に描いた餅より酷いんですよ。絵にかいたカビた餅みたいなんですよ。だから、そういうことがキチッと認定されれば、誇りをもって生きていけるでしょうし、アイヌを学びたいという人も増えてくるんじゃないですかね。

成田: やっぱり今、アイヌのルーツ、出自があっても、アイヌだと認識していない、言わない人達って、結構多い感じですか？

竹内: 多いと思いますけど、分かんないですけどね。そういう人って僕らと接する機会が、まずないですからね。

成田: ああ、そうか、そういうことか。

竹内: そうですね。アイヌと名乗ってくる人と、僕らは会ってますから。ただね、婚姻の関係を見ているとアイヌ者間って、非常に少ないんですよ。100組のカップルがいたら、90何組かはアイヌ対和人じゃないですかね。アイヌ対非アイヌ。外国人の方と結婚する方もいるし。在日の方とかもいますしね。だから90何組が非アイヌと結婚してる。そういう意味でいくと、少しでもアイヌの血が入ってればアイヌだとすれば、人口何十万人というはずなんですよ。だって、北海道の人口は、500万人ちょっとで、アイヌの人口が仮に10万としても<sup>56</sup>、2%ですから。で、98%の中に2%の少数民族がいて、婚姻なんて単純計算でない

ですけど、単純計算すると、2%だから、えー、49組くらい。50組中49組くらいが、アイヌと非アイヌとの結婚ですね。そうすると、相当数のアイヌの血を引いた子が生まれてきて…。でも、アイヌ協会の会員<sup>57</sup>なんて、今すごい少ないですから、相当知らない・隠してる人が多いんじゃないですかね。

成田: そうですね。そういうことですよ。だから、2%のアイヌの中での結婚じゃなくて、そのほかの98%と結婚されていくんで、単純に言って2%が4%に…、お子さんがひとりふたりできるとなると、さらに。ってことなんだけど、アイヌ協会の会員数は、そんなに多くない、と。

竹内: んー、減ってる減ってる。

成田: 減ってるんですね？ ああ、そうなのか。なんで減っていくのかっていうと、やっぱりその、アイヌとして生きていくのが、生き辛い世の中…ってのが、あるんですかね？

竹内: だろうね。

### 3-21. 北海道アイヌ協会設立の目的

竹内: で、会費払って会員になっても、利点が少ないと。

<sup>56</sup> 2017年の調査で、アイヌ（地域社会でアイヌの血を受け継いでいると思われる方、また、婚姻・養子縁組等によりそれらの方と同一の生計を営んでいる方）は13,118人（北海道環境生活部2017）。しかし、アイヌ民族としてのアイデンティティを持ちながらも、それ

を表明しない人の数はまだまだ多いとも指摘されている（北海道観光振興機構2019, 87-89）。

<sup>57</sup> 公益社団法人北海道アイヌ協会は、ホームページなどで会員数を公開していない。

前はね、高校の奨学金<sup>58</sup>とかね。それなりに出てて、子どもが高校になると会員になるっていうパターンが多かったんだけど。今は、高校自体が…、一般の対策も進んでて、そんなにアイヌ協会の奨学金とかね、受けなくても良くて。そんなに利点がない。で、あと、大学の方は貸し付けになっちゃって、返済条件が厳しくなっちゃって。確かね、大学卒業して5年ぐらいに、年収300万超えると返済、ということなんで。ほとんどの人が普通に働いてると返還しなきゃならない。だから、借りる時はいいけど返すの大変なんですね。年間100万弱ですから、400万弱の借金するわけだね。

成田: キツイ…。

竹内: キツイですよ。で、そんなことがあって…。で、住宅の方<sup>59</sup>も今は低金利ですから。5%の住宅金融公庫の金利の時に、ウタリ対策の方は2%なんですね、アイヌのね。その時は、そこに利点があったんだけど。今はそんなに%に差がないし。

成田: ですね、今は本当に低いですからね。

竹内: で、連帯保証人ふたりとか、厳しいんですね。信用保証協会とか使えないですから。

だから、そんなのが色々あって、会員の減少が続いていますね。本当は、そういったことだけじゃなくて、意識の問題として、会員を募ったりして、組織の運営を、そういったもので充実しているべきなんでしょうけども。

成田: その、アイヌ協会ができた目的のひとつにあった、福祉。そこの部分が、今いろんな事情で、そんなにアイヌの方にとって、メリットの大きいものではなくなってきた…。

### 3-22. アイヌを取り巻く法整備

竹内: で、そのアイヌ新法制定活動みたいな、意識付けるような取り組みがないですし。

アイヌ文化振興法<sup>60</sup>、あれはね、差別撤廃条約だっけかな？ なんだっけ？ 日本が遅れて批准するでしょ？ 国連の…。人種差別撤廃条約<sup>27</sup>。あれ、批准するんですけど、その条約に反する法律がふたつあったんですよ。ひとつはハンセン病の法律。強制隔離。で、もう一つが旧土人保護法<sup>61</sup>。旧土人保護法は、名称からしても、制定理由からしても差別法ですから、明らかに。で、それが抵触するわけですよ。差

<sup>58</sup> 2020年度には、高校入学支度金を計86名、高校就学資金を計239名に支給している。高校入学・就学は給付だが大学については貸付となっている（北海道アイヌ協会2020b, 20）。

<sup>59</sup> 住宅改良資金貸付事業を行っているが、2020年度実績は0件（北海道アイヌ協会2020b, 27）

<sup>60</sup> 正式名称は「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（日本国1997）。

<sup>61</sup> 1953年の「らい予防法」と、1899年の「北海道旧土人保護法」。後者について、北海道のウェブサイトでは、日本国民への同化を目的とし、医療・生活扶助・教育などの保護対策をおこなうものだったが、対策は必ずしも成果をあげられなかった、とまとめている。  
[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new\\_sinpou4.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_sinpou4.html)  
(2022年1月12日閲覧)

別撤廃条約にね。だから、それを廃止しなくちゃならん。

ただ、廃止だけしたんじゃ、世論が納得しないんで。アイヌ文化振興法を作ったんだ。できないよりは、少しでもできたほうが良いと。13年も運動してきてね。身銭出しかって、職員も雇って、国連まで行って。13年ぐらいやってたんだけど、こんなもんしかできないと。でも、できないよりいいべと、いうところでしょうかね。六つの大きな柱を立てて要望したんですけど、そのうちの0.5だけ。文化教育の文化だけ。教育も削られて。

で、萱野先生が、これから育てていけばいいんだという言い方したんだけど。本人には言ってませんよ。心の中でね。梅の木

を植えたって、桜の花は咲かないんだってね。で、こんどは、アイヌ施策推進法<sup>62</sup>でしょ？ もっと悪い。

成田:え？ もっと悪いですか？

竹内:もっと悪い。お金は多く出ますよ。で、あれは市町村相手に、市町村がやる事業にお金を出す。アイヌがやることじゃないんですよ。その地元のアイヌの団体と相談しなさいとなってますけど、アイヌがやることじゃないんですよ。市町村がやることなんです。町内を走る車にアイヌ文様をあしらって見たりね。

成田:難しいですよ。文化を消費しているのか、文化を復興させるのか。それらの、見極めをきちんとやっていかないと。表面だ



国立アイヌ民族博物館 2F パノラミックロビーから見る国立民族共生公園。筆頭著者撮影。

<sup>62</sup> 正式名称は「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」（日本国

2019）。制定に関わった常本照樹氏へのインタビューをまとめた成田（2022）も参照。

けなぞっちゃうと、それって、ただの一過性のイベントで終わっちゃうので…

竹内:だって、ウポポイだったら、儲かったのって、日本のゼネコンですからね。博物館の展示などもトップ企業が儲かっただけですからね。アイヌにはほとんどお金入ってきてませんからね。ゼロじゃないですけど。

成田:そちらで働いてるアイヌの方もいて、勉強して、ゆくゆくは…っていうこともあるでしょうけど。

竹内:私の子どもも入ってますけど。だから、ゼロじゃないけど。研究職とか役員はほとんどが和人ですね。で、元国立民族学博物館の副館長が、こっちの館長になってますけどね。で、ゆくゆくはアイヌの若い者を育てて、って言うんですよ。新聞なんかで。じゃあ、その構想を今作れよと。ゆくゆくはしたいってだけだから。一切今してないんですよ。今すぐできなくても、こういう風に準備してますとかって、それないんです。

成田:それでアイヌの若者を育ててやっていくんだったら、今からちゃんとプログラムなり、構想をちゃんと作って見せといてくれなかったら、いつ変わるんだよ、と。そういうことか…。

竹内:最初はね、中々いいこと言ってるなって思ったんですけど。2回も3回も聞いている

とね、全然具体性が無いんですよ。一向に動く気配もないから、ああ、こいつはただのリップサービスだなんて。

あとね、文化振興法だと、アイヌと民族をくっつけてないんですよ。完全に分けてるんです。アイヌの人々が民族…どうのこうのとかってね。アイヌ民族とは一切言っていない。今の推進法もそうだと思うんですけどね。

成田:そう、「アイヌ民族」って言わないんですよ。そして、先住民だって言ったにも関わらず、先住権<sup>63</sup>がないっていうのが、不思議な感じがするなあ。

…そんな感じかな、私は。

### 3-23. 信頼を得るといこと

川本:じゃあ、ちょっと私からひとつ。お話大分最初に戻ってしまうんですけども。最初にこういった活動に参加する時に、結城さんが、信頼をしてくれたんじゃないかってお話があって、その…どういうことが信頼を勝ち得たのかな…ですね。当時、色んな学生さんが入っていたりとか、学生さん以外にも入ってたと思うんですけども。ただ、全員がその後も活動していたわけじゃなくて、出て行ったりいなくなったりとか、その中でも信頼を勝ち得て一緒にやっていたりとなつた、その違いというか、どういうところがその。

<sup>63</sup> 「先住民族の権利に関する国際連合宣言」では、自治の権利（第4条）や宗教的伝統と習慣の権利、遺骨

の返還（第12条）などさまざまな先住民族の権利について言及されている（国際連合2017）。

竹内:信頼を勝ち得たって、私が結城さんの信頼を得たってこと?

川本:はい。そうです。

竹内:いや、それ言ってないですよ。結城さんが一般市民から信頼を得たってことですよ。

川本:ああ、でもその登別からお電話してくれたってというのは、なんかその信頼してくれたんじゃないかって

竹内:それは、登別市民が、登別のアイヌが、今まで過激だって敬遠されてきた結城さんが北大で非暴力で、しかも学問最高学府を、大学教授を論破したわけだから、非暴力でね。で、それで市民権を得たっていう話でね。

で、僕が結城さんから信頼されたかどうか分からないんですけど、まあ、ひとつには、被差別部落出身ということはあったと思うのね。それと、あとは、北大生という。彼の言葉で、「道庁楡の会<sup>64</sup>っていう、北大卒の派閥が、かなり力を持ってるという。だから、アイヌ側も北大生とか北大卒を仲間に入れて、使えばいいんだ、戦力にすればいいんだ」と、みたいなことを言ってましたね。そのふたつが大きかったんじゃないですかね。

だから、僕は逆に、被差別部落だつてのを言うの控えたのさ。アイヌのところに入って行くのにね。最初から、「お前は部落か」と、で、「同じ被差別同士で仲良くしよう」

みたいな関係ができるんですよ。で、そうすると、僕が信頼されて付き合うんでなくて、被差別部落民ってことで入っちゃうと、ちゃんとした信頼関係を築けないなと思って、しばらくは黙ってました。隠したんではなくてね。敢えて言わなかったんですね。後から、親しくなってから言ったら、「何で最初から言わないんだ」と言われたけど。いや、そういうことじゃないんだと。

成田:ですよ。自分のバックを信用してもらおうとかじゃなくって…

竹内:自分自身をみて欲しい。

川本:逆に、まさにそれが、凄く信頼を…。あ、信頼っていつちやいましたけど。結城さんの的には…

竹内:いや、結城さんには最初から言ってましたから。そういうところは、あったんじゃないかな。あと、学生でそこまでやろうという人間がいないですから、そういう意味では面白い奴が飛び込んできたと思ったんじゃないでしょうかね。当時労働運動が盛んで、アイヌのことに飛びついてくる人がいっぱいいたんですけれども、みんなすぐ辞めていくんですよ。で、結城さんが言ったのは、「運動を辞めることができても、俺はアイヌであることを辞めることはできない」と。だから、周りがどうあろうと、最後までやるんだという不退転の決意だと思うんですけどね。それ聞いたときに、ああ、俺も

<sup>64</sup> 北海道庁の北大出身者による会だと思われるが、詳細は未確認。

軽々しく辞めるわけにいかんなど、言う思  
いはしましたけれどね。

### 3-24. 結城庄司という人間

成田: 結城さんって、普段どんな感じの方で  
した?

竹内: えーつとね。面白い人ですよ。非常に  
ね、ヤクザっぽいところもあるしね。あの、  
ヤクザじゃないですけど。なんか、そん  
な感じがするよな。

成田: べらんめえ、みたいな感じですか?

竹内: ん。ケンカとかも得意だったみたいで  
すよ。登別でも、アイヌのことで夜中に怒鳴り  
こみとか行っていましたからね。

成田: 北大のことは、テントで非暴力で、やられ  
たんですけど。風雪の像<sup>65</sup>…じゃなくて、  
シャクシャインの像の…削ったじゃないで  
すか<sup>66</sup>? やらなきゃいけない目的のため  
にいろんな手を使える人だなあと。

竹内: そう意味では、既成概念に囚われない  
ですね。あとね、シャクシャインのあれね、  
台座を削っただけですからね。ネームプレ

ートのね。だから暴力でもなんでもないで  
すけれどね。まあ、破壊行為には違いない  
けど。

成田: 器物破損には違いないけど、誰かを傷  
つける、肉体的に傷つけたわけではない  
んですよ。

### 3-25. 過激派とアイヌ民族運動

成田: この時って、時期的にどうなんだろ…。

あの、過激派っていわれる方々が、凄く活  
動が盛んでしたよね。

竹内: ん。で、そういう人たちも、その、アイヌが  
どうのこうのって言ってましたけど。特にそ  
の、ここに書いてある東アジア反日武装戦  
線<sup>67</sup>。大道寺将司<sup>68</sup>でしたっけ? 彼、釧  
路出身で、チカップ美恵子<sup>69</sup>の同級生な  
んですよ。で、大道寺将司の小伝が本で  
出てますね(松下 1987)。

で、これ【チラシ<sup>70</sup>の太田昌国氏を指し  
て】、その大道寺将司の従兄弟です。従  
兄弟兄さんですね。で、救援活動とかして  
ましたね。で、大道寺将司は釧路だし、結  
城さんも釧路出身だから、繋がりあるのか

<sup>65</sup> 北海道旭川市の常盤公園にあった「風雪の群像」の  
こと。1972年10月23日、東アジア反日武装戦線が日  
本帝国主義の「アイヌモシリ侵略」の象徴とみなし爆  
破した。

<sup>66</sup> 北海道新ひだか町の真歌公園にあった初代「シャク  
シャイン像」のこと。1972年9月15日、結城庄司、太  
田竜、足立正生、新谷行らが台座に刻まれていた町村  
金吾知事(当時)の名前を削り取った事件。

<sup>67</sup> 東アジア反日武装戦線は、大道寺将司が中心となっ  
て設立された組織から始まる部隊制組織。1970年代前  
半、旧財閥系企業や大手ゼネコンを標的とした連続企  
業爆破事件を起こした。

<sup>68</sup> 大道寺将司(1948-2017)。

北海道釧路市出身の活動家。1972年末に「東アジア反日  
武装戦線“狼”」を結成した。太田昌国は従兄。

<sup>69</sup> チカップ美恵子(1948-2010)。北海道釧路市出身の  
アイヌ民族の刺繍家、文筆家。

<sup>70</sup> 竹内氏に資料としてご提供いただいた、書籍(太田  
2021)のチラシ。太田昌国(1943-)は北海道釧路市出  
身生まれの編集者。民族問題やフランス現代思想など  
を得意とする。

なって思うけど、この人がたの文章読む限りではないですね。どっかで接触があったかは知りませんが。

成田:もちろん、1回も会ったことがないとは思わないけども、だからと言って一緒に何かしようとは…。

竹内:そういうことはなかったと思う。それでね、ひょんなことから、友人に教えてもらって…。足立正生<sup>71</sup>というですね、恐ろしくて近寄ったこともない。確か日本赤軍の人だったと思った。この人は聞き取りで結構語ってるんでね。

結城さんと1972年に会ってるんですよ。シャクシャインの台座を削るときに、一緒にいたんです、その前に。これは、その文章です<sup>72</sup>。これを読む限り、そういった過激派とは関係ないですね。で、足立正生は、「一緒にパレスチナに一緒に行こうよ」と結城さんを誘ったんだけど、それは実現していない。要するに、結城さんも、いろんなことがあって上手くいかないとき、「気分転換も兼ねてパレスチナ行って学ばばいいんでないか」って誘ったんだけど…。あ、どうぞそれ、コピーです。

成田:あ、いいんですか？ ありがとうございます。

竹内:だから、そういうことから言って、付き合いはなかったんじゃないかと。で、非難声明も出してますね。道庁の爆破事件の時は<sup>73</sup>。ただ、まったく共鳴しないかっていうと、これは疑問符でね。僕は正直本人から聞いてないんで、分かんないんだけど。まったく共鳴してなかったかどうか…。ああいった暴力的なやり方は、もちろん反対していたでしょうけど、彼らの考え方に、どうだったのかな？ っていう気はしますね。これは、一生分かんない疑問だと思いますね。本人に聞いてませんからね。聞きゃよかったですね。ただ、3月2日だったかな、道庁爆破。で、なぜ3月2日なのかっていうのを、彼はすぐ言いましたね。旧土人保護法の制定の日かなんか、旧土人保護法と関係あるんですね。

余談なんですけどね、その時にね。その事件で刑事が僕のアパート来ました。学生の時。で、なんで来たのかなって思ったら、あの時って、経済学部生だったので、日経新聞取ってたんですよ。ろくに読んでませんでしたが。で、その爆弾の包み紙が日経新聞だったんですよ。で、日経新聞取ってる者、全部当たったみたい。まあ、どうでもいいことですけどね。

<sup>71</sup> 足立正生 (1939-)。映画監督・脚本家。1971年にパレスチナで『赤軍-PFLP・世界戦争宣言』を撮影・製作。1974年に日本赤軍に合流し、国際指名手配される。1997-2000年にレバノンで逮捕抑留。2000年3月に刑期満了にともない日本へ強制送還。

<sup>72</sup> アイヌーシャクシャシン像事件の項に、足立氏がアラブに出奔してその後具体的な共同関係の進展がなかった旨が書かれている (足立 2003, 414-419)。

<sup>73</sup> 1976年3月2日に北海道庁が爆破され2名が死亡。東アジア反日武装戦線の犯行声明が出て、大森勝久 (1949-) が逮捕された。死刑判決をうけた大森氏は無罪を訴え 2022年現在も収監中。結城は、道庁爆破は「無差別テロ」であり、日本人民の立場からは、敵対する矛盾として、完全に糾弾し葬り去らなければならない。さらに、アイヌ解放運動とは、全く無縁な非論理的”爆弾テロ“であることを強く主張する」と記している (結城 1980, 136)。

成田: いや、まあ時代がね、そういう時代で、その過激派って言うてる人も、過激なことはするけど、言うてるのが荒唐無稽な、全然訳の分からないことと思切れないところもあるんです。

竹内: そりゃそうですね。特に大道寺将司は釧路出身で、アイヌのことはやらないといけないみたいね、使命感みたいなものも持ってたんですね。彼のことを書いた評伝、読んだんですけど。やり方間違っていましたけどね。

成田: そうなんですよね。暴力に訴えるっていうことが、ちょっと違う。いやだいぶ違う。

竹内: ただね、爆弾事件も計算違いで、死傷者が出ると思ってなかったらしいんですよね。だから、人を殺すのが目的じゃなかったみたいですね。

成田: …壊していいのは建物だけで、あとは恐怖感だけ持ってもらえれば良かった…。

竹内: 「自分たちの主張を印象付けるために、建物を一部壊すっていう感じだったんだけど。どういった手違いか…」ということが、書いてありましたね。本当かどうかは、知らんけど。

成田: そこは、分かんないですけどね。時代も大きかったかなと…。あ、すみません、川本先生の質問に乗っかりました。あ、これ<sup>70</sup>もいただける？

竹内: どうぞ。関係ないですけどね。太田昌国氏は、ネットなんかでコラム書いてるんですよ。知里幸恵のことなんかね。

成田: こんな感じで…私は。大体伺えたような気がします。後は、よろしいでしょうか、先生？

川本: はい。

成田: では、こんな感じで。長い時間、ありがとうございました。

## 4. インタビューに関する基礎情報

### 4-1. アイヌ民族運動に関する基礎情報

本稿でいう「アイヌ民族解放運動」とは、アイヌ民族への差別に対抗する運動や文化復興の活動を通じて、アイヌがアイヌとしての自己認識を強め、自らのアイデンティティを確立しようとする試みを指す。

本稿が扱った1970年代は、学生運動が激化し過激派と呼ばれる組織による武力闘争が行われていた時代でもある(第3章25節参照)。当事者であるアイヌ民族による活

動以外にも、非アイヌによるアイヌ差別抗議運動も行われていた。

本節では、インタビューで触れられた結城庄司氏の略歴と、彼が中心となった「アイヌ民族解放運動」の3事例を紹介する。なお各事例の表記と概要は、竹内(2020)を主に参照しその他の文献(上武2006; 登別市2020; 野口2020; 植木2019; 結城1997)も参考とした。

**4-1-1. 結城庄司氏の略歴** (第3章24節参照)

- 1938年 2月20日、北海道釧路市に生まれる
- 1959年 阿寒湖畔のアイヌコタン<sup>74</sup>建設に参加
- 1968年 社団法人北海道ウタリ協会(当時)理事に就任(～1976年)
- 1972年 アイヌ解放同盟<sup>75</sup>を創設。代表に就任
- 1972年 9月20日、シャクシャイン像事件<sup>66</sup>
- 1974年 根室市で第1回「ノッカマップ・イチャルパ」<sup>76</sup>を開催
- 1977年 北大アイヌ差別講義糾弾闘争(～1978年)
- 1978年 登別アイヌ共同墓地破壊問題を告発
- 1982年 9月15日、札幌市豊平川で第1回「アシリチェブノミ」開催
- 1983年 9月3日、急性心不全により没。享年45歳

**4-1-2. 北大経済学部長糾弾 (1977-78)** (第3章2節参照)

1977年、北海道大学経済学部長林善茂氏による北海道経済史の講義で繰り返し行われた、アイヌ民族や女性に対する差別発

言の真意を学生が問いたすが返答はなかった。北海道新聞は7月6日、朝日新聞も7月8日にアイヌ差別抗議に関する報道を行った。その翌日7月9日の講義では、林教授は学生の質問にも一切答えず、講義をするための言葉すら発せず、ただ何時間もだんまりを続けていた。学生たちは講義終了予定時刻後、学生の多くが退出してから扉を内側から施錠し、林教授の退室や外部からの入室が困難な事態(ヘルメットを着用した学生による立てこもり状態)になった。林教授は6月に高血圧症で倒れており、3度目の医師の診断の結果、このままの状態が続くならば脳卒中または心筋梗塞を誘発する危険があるとの所見が示されたが、事態解決には至らなかった。

同日夕方、機動隊約120名が動員され、林教授の「救出」と学生3名が「逮捕」された(21日間の拘留後不起訴。ただし拘留期間中は接見禁止の措置が取られた)。この時、講義室内にいた学生数より、対応するために集まった教授会の人数が多かったにも関わらず機動隊が動員された。

12月14日、林教授宛てにアイヌ解放同盟の結城庄司代表から公開質問状が、内容証明付きで送られた。回答期限の12月20日まで返答がなかったことを受けて、結城代表は北大生2名と北海道大学経済学部敷地内で雪の中の座り込みを開始する。この抗

<sup>74</sup> 現在は36戸・約120人が暮らす。民芸品の制作・販売を営む。<https://www.akanainu.jp/about> (2022年1月4日閲覧)

<sup>75</sup> アイヌの尊厳を守り、自決権・先住権に基づくアイヌ民族の権利回復などを目的とする団体。

<sup>76</sup> 1789年のクナシリ・メナシの蜂起の犠牲者の供養祭。根室半島の根室海峡側にある岬で、現在も9月に実施。<https://www.ainu-assn.or.jp/year/index.html> (2022年1月3日閲覧)

議活動は「チャランケ」<sup>77</sup>闘争と呼び、テントに泊まり込みながら続けられた。林教授から結城氏に対し3通の手紙が届けられたが、取り合わなかった。

翌1978年1月9日(雪中座り込みから20日)、林教授に頼まれた萱野茂氏が仲介役を引き受け、チャランケは1月11日、20日と行われ、22日に林教授が「自己批判」<sup>78</sup>を行い終結した。

#### 4-1-3. 登別アイヌ共同墓地破壊問題

(1977-78) (第3章3,4節参照)

1971年、登別市助役の田村仙一郎氏(後の市長)がアイヌの伝統的な墓地<sup>79</sup>を、墓石がないことを空き地と解釈し、正式な使用許可証を市の担当職員に発行させ、自家の墓碑を建立した。市外に転居していた遺族がこのことを知り、市に相談したが納得のいく回答を得られなかった。そのため北大経済学部長糾弾での抗議活動で全道的に注目を集めていた結城庄司氏に相談した。

相談を受けた結城氏は登別市に赴き、登別市のアイヌ民族有志とともに「ウタリ墓地破壊に抗議する会」を結成し、市長職にある田村氏への抗議活動と市民に訴える活動を行った。1978年の市長選で田村候補は落選したが、建立された墓を退かすことはできなかった。しかし、この問題がウタリ協会登別支部再建の契機となった。

<sup>77</sup> チャランケとは、談判することを指す。争いごとや文句がある場合に、自己の主張を言葉で雄弁に論じて相手を説得しまたは言いくるめて解決するやり方。

<sup>78</sup> 自己批判とは、自分の「誤り」を「自発的」に認め、公開の場で自分自身を批判する事を指し、各国

#### 4-1-4. アシリチェ°ノミの復活(1982-)

(第3章4節参照)

北海道札幌市を流れる一級河川豊平川の河川敷で行われる「アシリチェ°ノミ(新しい鮭を迎える儀式)」。アイヌ民族にとって生活に欠かすことのできない大切な魚である鮭が遡上する頃に行われていた儀式である。

河川でのサケ漁の禁止や同化政策により漁労活動が衰退し、儀式も長年行われなかった。さらに豊平川のサケは水質汚染などを原因とし、1950年代には事実上絶滅していた。しかし、下水などのインフラが整備されたことで水質は急速に改善し、豊平川は1972年時点でBOD 3mg/L以下というサケ類が生息できる河川水質基準を取り戻していた。1978年、「カムバックサーモン」と呼ばれる市民活動が展開。1981年に最初の母川回帰が見られた。

の共産党が行った。日本でも当初の武装革命を支持した組織などで行われた。

<sup>79</sup> 土葬し、楕円形の土まんじゅうを作り、クワ(木製の墓標)を立てる。

1982年、結城氏を中心として約100年ぶりに「アシリチェプノミ」がアイヌの伝統的な作法により開催される。以降、毎年開催され、現在はアシリチェプノミ実行委員会の主催により開催されている。



2019年に開催されたアシリチェプノミのヌササン(祭壇)。このヌササンと豊平川の間はアイヌの伝統的な作法により通行禁止となる。

#### 4-2. 公益法人のアイヌ民族関連団体

本稿に登場するアイヌ民族に関する団体は、本稿インタビューイである竹内氏が在籍していた「公益社団法人北海道アイヌ協会」と、ウポポイの管理等を行う団体として指定された「公益財団法人アイヌ民族文化財団」のふたつがある。

これらは公益法人であり、公益法人とは「公益の増進を図ることを目的として法人の設立理念に則って活動する民間の法人」であり、「志ある人の集まりである公益社団法人と、財産の集まりである公益財団法人」があるとされている(内閣府 2021)。

#### 4-2-1. 北海道アイヌ協会 (第3章5, 6, 21節参照)

概要:北海道に50ある地区協会から構成されるアイヌ民族の組織。会員はアイヌ民族とし、例外として伴侶、養子は本人限りの会員資格を持つことができる。アイヌ民族か否かの判定に関しては、戸籍謄本や除籍簿、文献等を活用して確認している。全てのアイヌ民族がアイヌ協会の会員になっているわけではなく、会員数も減少しているが、2019年12月の会員数は2,198人であり(札幌市教育委員会 2020)、アイヌ民族最大の組織である。

ウェブサイト <https://www.ainu-assn.or.jp/index.html> (2022年1月6日閲覧)

目的:北海道に居住しているアイヌ民族を主な構成員として組織し、先住民族アイヌの尊厳を確立するため、人種・民族に基づくあらゆる障壁を克服し、その社会的地位の向上と文化の保存・伝承及び発展に寄与する(ウェブサイトより抜粋)。

設立:1946年。数回の名称変更を行い現在に至る。

活動:アイヌ民族の社会的地位の向上に関する施策の推進として、北海道教育委員会から委託を受けてアイヌの伝統的な民俗技術及び民俗芸能の基礎を学ぶ講座を道内各所にて開催する。また、千歳空港や東京などでアイヌ民芸品生産者の販路拡大や後継者育成などを目的と

した「民芸品展示・販売会」や、公募作品によるコンテスト方式のアイヌ伝統工芸展も開催する。他にも、アイヌ民族に関する調査研究や北海道、国に対する提言も行う。会員向けの各種貸付金の貸し付けなどの福祉施策なども長く行っている。北海道立アイヌ総合センターの指定管理を行う。展示室は北海道立道民活動センター(かでる 2.7)7階に設置されている。



展示室の様子

#### 4-2-2. アイヌ民族文化財団 (第3章7, 17, 22節参照)

概要: アイヌ施策推進法に基づき、ウポポイを管理運営している組織。北海道と国が設立。

ウェブサイト <https://www.ff-ainu.or.jp/>  
(2022年1月23日閲覧)

目的: アイヌ文化の振興、アイヌの伝統及びアイヌ文化に関する知識の普及及び啓発を図るための施策の推進並びに民族

共生象徴空間を運営し、もって、多様な価値観が共生し、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される共生社会の実現を図り、あわせて我が国の多様な文化の一層の発展に寄与する(ウェブサイトより抜粋)。

設立: 1997年

1996年「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」報告書より、「アイヌの人々の民族的な誇りが尊重される社会の実現と国民文化の一層の発展」を基本理念とした施策を実施する主体として設立。北海道が設立準備し、主務省庁である北海道開発庁(現国土交通省)及び文部省(現文部科学省)から、公益法人として設立許可を受けた。

2013年: 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構として移行登記。

2018年: ウポポイの運営主体の指定に関係して、一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は合併し、「公益財団法人アイヌ民族文化財団」と改称。

2019年: アイヌ施策推進法に基づき、国土交通大臣及び文部科学大臣からウポポイの管理等を行う法人として指定。

活動: ウポポイは COVID-19 のため、当初開業予定だった4月24日から2度の延期を経て、7月12日に開園。その他、一般に副読本と呼ばれる『アイヌ民族: 歴史と現在』を発行している。

## 謝辞

インタビュー調査に快く協力して下さった、竹内渉氏に深く感謝申し上げます。また、CoSTEP 関係者のみなさま、並びに研修科、科学技術コミュニケーション研究室川本グループのメンバーも、この場を借りて深く感謝の意を表します。

## 文献：

足立正生 2003:『映画/革命』河出書房新社.

アイヌ民族文化財団 2020: アイヌ民族についての副読本「アイヌ民族：歴史と現在」小学生用/中学生用/教師指導書  
<https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/index.html> (2022年1月10日閲覧).

アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会 2009:『報告書』<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainu/dai10/siryou1.pdf> (2022年1月6日閲覧).

文化庁 2018:「象徴空間のアイヌ語愛称の一般投票を開始！～分かりやすく覚えやすく 10月26日より～」  
[https://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/10/26/a1410455\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2018/10/26/a1410455_01.pdf) (2022年1月9日閲覧).

土橋芳美 2017:『痛みへのペンリウク 囚われのアイヌ人骨』草風社.

北海道アイヌ協会 2016:『アイヌ民族の概要—北海道アイヌ協会活動を含め—』<https://www.ainu-assn.or.jp/public/files/1d05c1dd9ceb9cf70478cd757622d3075a2c94b7.pdf> (2022年1月10日閲覧).

北海道アイヌ協会 2017:『平成29年アイヌ生活実態調査報告書』  
[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/5/7/2/6/5/7/\\_/2%E5%B9%B3%E6%88%9029%E5%B9%B4%20%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C%E7%94%9F%E6%B4%BB%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/5/5/7/2/6/5/7/_/2%E5%B9%B3%E6%88%9029%E5%B9%B4%20%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%8C%E7%94%9F%E6%B4%BB%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf) (2022年1月10日閲覧).

北海道アイヌ協会 2020:『令和2年度事業報告』<https://www.ainu-assn.or.jp/outline/files/4a71d7376fbd3e004995601033150f21e9178e90.pdf> (2022年1月10日閲覧).

北海道アイヌ協会・日本人類学会・日本考古学協会・日本文化人類学会 2019:『アイヌ民族に関する研究倫理指針(案)』  
<https://www.ainu-assn.or.jp/news/files/3b014e7a03b0c1567978f9a1da5f17b8e8813a5a.pdf> (2022年1月7日閲覧).

北海道大学 2013:『北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書』<http://hdl.handle.net/2115/82908> (2022年1月7日閲覧).

北海道観光振興機構 2019:『アイヌ文化・ガイド教本』[https://visit-hokkaido.jp/ainu-guide/pdf//ainu\\_guide.pdf](https://visit-hokkaido.jp/ainu-guide/pdf//ainu_guide.pdf) (2022年1月10日閲覧).

北海道教育委員会 2018:『資料編』[https://www.dokyoai.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/5/3/8/7/4/1/\\_/keikaku-shiryohen.pdf](https://www.dokyoai.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/5/3/8/7/4/1/_/keikaku-shiryohen.pdf) (2022年1月6日閲覧).

北海道新聞 1983:「結城庄司さん急死 アイヌ解放運動に尽力」1983年9月3日夕刊.

放送倫理・番組向上機構 2021:『日本テレビ『スッキリ』アイヌ民族差別発言に関する意見』<https://www.bpo.gr.jp/wordpress/wp-content/themes/codex/pdf/kensyo/determination/2021/41/dec/0.pdf> (2022年1月9日閲覧).

萱野茂 2002:『アイヌ語辞典』三省堂.

木部暢子 2011:「言語・方言の定義について」『危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書』5-8.

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kokugo\\_shisaku/kikigengo/jittaichosa/pdf/kikigengo\\_kenkyu.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/jittaichosa/pdf/kikigengo_kenkyu.pdf) (2022年3月23日閲覧)

国際連合 1965:『あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約』[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/conv\\_j.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/conv_j.html) (2022年1月26日閲覧)

国際連合 2007:『先住民族の権利に関する国際連合宣言』原文(英語)[https://www.un.org/esa/socdev/unpfii/documents/DRIPS\\_en.pdf](https://www.un.org/esa/socdev/unpfii/documents/DRIPS_en.pdf) 日本語(仮訳)  
[https://www.un.org/esa/socdev/unpfii/documents/DRIPS\\_japanese.pdf](https://www.un.org/esa/socdev/unpfii/documents/DRIPS_japanese.pdf) (2022年1月10日閲覧).

松下竜一 1987:『狼煙を見よ 東アジア反日武装戦線“狼”部隊』河出書房新社.

文部科学省 1992:『学制百二十年史 五 同和教育の振興』

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1318317.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318317.htm) (2022年1月6日閲覧).

内閣府 2018:『大学の保管するアイヌ遺骨等の出土地域への返還に関するガイドライン』

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/pdf/181226\\_chiiki-guidelines.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/pdf/181226_chiiki-guidelines.pdf) (2022年1月6日閲覧).

内閣府 2021:「公益法人民間が支える社会を目指して～「民による公益」を担う公益法人～」 [https://www.koeki-info.go.jp/outline/pdf/20210400\\_Pamphlet.pdf](https://www.koeki-info.go.jp/outline/pdf/20210400_Pamphlet.pdf) (2022年1月23日閲覧).

成田真由美・川本思心 2020:「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー」『CoSTEP 研修科年次報告書』4 (1)  
<http://hdl.handle.net/2115/78059> (2022年1月23日閲覧).

成田真由美・川本思心 2021:「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー」『CoSTEP 研修科年次報告書』5 (2).  
<http://hdl.handle.net/2115/82656> (2022年1月23日閲覧).

成田真由美・川本思心 2022a:「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー(1):インタビューイー常本照樹氏」『CoSTEP Report』5 (1). <http://hdl.handle.net/2115/84612> (2022年3月30日閲覧).

成田真由美・川本思心 2022b:「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー(2):インタビューイー木村二三夫氏」『CoSTEP Report』5 (2). <http://hdl.handle.net/2115/84785> (2022年4月12日閲覧).

NHK 2021:「アイヌ民族の遺骨安置のウポポイ慰霊施設 伝統儀式で先祖を供養」2021年10月17日放送  
<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-n23aafcdadddd> (2022年1月7日閲覧).

日本国 1957:「北海道旧土人保護法」(明治三十二年法律第二十七号).

日本国 1997:「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」法律第五十二号(平九・五・一四)衆議院ホームページ 立法情報 [https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb\\_housei.nsf/html/houritsu/14019970514052.htm](https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/houritsu/14019970514052.htm) (2022年1月10日閲覧).

日本国 2019:「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」平成三十一年法律第十六号  
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=431AC000000016> (2022年1月10日閲覧).

日本国 1953:「らい予防法」法律第二百十四号(昭二八・八・一五)衆議院ホームページ 立法情報  
[https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb\\_housei.nsf/html/houritsu/01619530815214.htm](https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/houritsu/01619530815214.htm) (2022年1月10日閲覧).

- 登別市 2020:『新登別市史 第10章アイヌ民族』<https://www.city.noboribetsu.lg.jp/docs/2021012500010> (2021年12月5日閲覧).
- 野口泰弥 2020:「サケ儀礼「アシリチェポノミ」から見たアイヌ民族の先住権運動」『日本文化人類学会第54回研究大会要旨』[https://store-confit.atlas.jp/jasca/jasca54th/static/20200401000951172\\_ja.pdf](https://store-confit.atlas.jp/jasca/jasca54th/static/20200401000951172_ja.pdf) (2022年1月3日閲覧).
- 太田昌国 2021:『現代日本 イデオロギー標註』チラシ.
- 大矢京右 2017:「児玉コレクションの収集経過とその周辺」『市立函館博物館研究紀要』27, 1-40.  
<http://hakohaku.com/wordpress/wp-content/uploads/2016/09/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%B4%80%E8%A6%81NO27-1.pdf> (2022年1月9日閲覧).
- 札幌市教育委員会 2020『アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料—第6集— 第5章北海道アイヌ協会等の活動について』[https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/education/ainu/documents/05\\_kyokai.pdf](https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/education/ainu/documents/05_kyokai.pdf) (2022年1月23日閲覧).
- 竹内渉 2020:『戦後アイヌ民族活動史』解放出版社.
- 東京大学 2012:「記者会見 日本列島3人類集団の遺伝的近縁性」[https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/p01\\_241101.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/p01_241101.html) (2022年1月7日閲覧).
- 植木哲也 2017:『新版 学問の暴力 アイヌ墓地はなぜあばかれたのか』春風社.
- 植木哲也 2019:「林善茂によるアイヌ差別抗議事件」北大 ACM プロジェクト編『北海道大学 もうひとつのキャンパスマップ ～隠された風景を見る 消された声を聴く』寿郎社.
- 上武和臣 2006:「アイヌ語と文化継承」『アイヌ民族文化財団講演会記録』<https://www.ff-ainu.or.jp/about/files/sem1801.pdf> (2022年1月3日閲覧).
- 結城庄司 1980:『アイヌ宣言』三一書房.
- 結城庄司 1997:『チャランケ 結城庄司遺稿』草風館.